

Vol. 138 Mar. 18. 2005

事業活動

特別委員会始動 ----- 12月24日 ---- 2
平成17年度年初収支暫定予算決まる ----- 1月26日 ---- 4
支部活動のあり方検討の時 ----- 拡大運営委員会 ---- 6
消費税についての「申入れ」(案)について ----- 消費税対応WG ---- 8
在庫回転日数調査 ----- 関東支部流通業務委員会 ---- 9

業務日誌より

勇気と自信を持って ----- 各地で新年会 ---- 11
今日的役割を求めて ----- SKDBC ---- 12

マーチャンダイジング連絡

食品表示に係る取組みの方向 ----- 日本チェーンストア協会 ---- 16

公正取引関連情報

優越的地位の乱用防止のために一步前進 ----- 公正取引委員会 ---- 20

講演録

2005年の日本政治と経済を展望する ----- 白鷗大学教授 福岡政行氏 ---- 25

回								
覧								

事業活動

特別委員会始動

—12月24日—

平成16年11月5日(金)に開催された理事会の第3号議案の討議の結果、これを受けて整理するための特別委員会が設置される事となった。

自薦者はなかったが、正副会長からそれぞれこれに参画する委員の推薦があり、暮の繁忙期であったが故に、第一回は平成16年12月24日に漸く開催の運びとなった。

第一回は5人の委員に加えて、オブザーバー1名計6名で、ここに至るまでの経緯、説明を事務局が行った後、各自の意見開陳を行なった。概ね討議テーマと方向・ポイントを各自が掴んだ感じであったので、次回を明けて平成17年1月25日と決め散会した。

因みに5人の委員は次の如くであった。

特別委員会 名簿

会社名	役職	氏名
伊藤忠食品(株)	専務取締役東日本事業本部長	大野 志郎
国分(株)	専務取締役営業本部長	成田 健
(株)明治屋	代表取締役専務	磯野 謙次
(株)菱食	代表取締役副社長	中島 保
(社)日食協	専務理事	井岸 松根

第二回は平成17年1月25日(火)であった。各自が各社の周辺の意見収集を行った上で出席した。事務局では運営委員会を中心としたこれ迄の意見情報を整理して出席した。

その結果、①当面する課題とその優先度、②今後の運営上に今日の結果を反映して行く為の具体策について、本部委員会と支部活動のそれぞれについて検討した。

当日の結果をまとめた正副会長への答申は次の如くであった。

平成17年1月25日

正・副会長殿

特別委員会討議事項の報告

特別委員会 委員一同

平成17年1月25日(火)第2回特別委員会において、拝命した事項について討議し、結果について以下の如く報告をいたします。

結論(基本方向の確認)

全国的同業団体としてますますその使命は重大なものとする。当業界の地位の確立と

社会的発言力強化、一企業では成し得ない要請など、そのための活動は、売上高で上位に位置する企業が率先し、負担を担っていく以外に方法は無い。その上位企業の負担をできる限り軽くし、かつ当初の目的を達成するには、事業活動の軽重緩急の判断をより迅速に行える組織体とし、必要最小限の事業活動を展開することを提言するものである。

因みに、現組織現メンバーにおいては、対応する諸問題に対して、社内決定権を有するものの参加が少ないことから、組織の内部疲労が否めない。従って大幅に組織のあり方と決定権者の参画の機会を考慮し、以下の如く改革をなすべきと考える。

1. 本部委員会組織の変更

政策・企画・基本方針を検討する「政策委員会」とそれを受けて活動することを統括する「執行運営委員会」を設置し各ワーキンググループを直轄する。

そのための委員企業と担当メンバーを正副会長がここで推薦する。と同時に本特別委員会はその使命を終えたものとし解散する。

当面の現実的運営としては

- ・現運営委員会は、「政策委員会・執行運営委員会」設置の後解散する。
- ・現存する各委員会の事業計画を「政策委員会」が一旦保留し、検討する。その結果必要あれば委員会を改組若しくは解散する。
- ・それまでの間、現存する食品流通委員会、情報システム委員会、物流委員会、商品開発研究会は「政策委員会」の指示を受けながら従来の活動をする。
- ・各研究会は原則として従来からの研究活動を継続する。
- ・各ワーキンググループは所期の目的達成時に解散する。
- ・賛助会員世話人会などの出席メンバーはそのつど決定する。

2. 支部活動の活性化と支部間格差の是認

- ・事業所会員の各支部におけるサポート体制・役割分担の明確化を行ない、地区の支部長店の負担をできる限り少なくする。
- ・総会、研修会などの必要度・内容の見直しおよび活動費予算節減の検討を行う。
- ・上記の結果を討議するため、17年1月26日開催の拡大運営委員会において問題提起をする。
- ・各支部はこの問題を受け止め、検討し、17年度の各支部総会において結論を事業計画と予算に反映し、支部会員に伝達する機会として活用する。
- ・結果として各支部間に活動の格差があっても止むを得ないものとする。

3. 会員の協会に対する関心・依存度の濃淡について

- ・委員参加企業優先テーマになる必然性の認知を求める。一方において問題提起を求め、事業参加を従来以上に呼びかける。
- ・委員会参加ができない企業でも気軽に組織を活用することができる体制の検討（研修会、会費のあり方）を今後も続ける。

4. 会費制度の見直し着手について

- ・17年度における事業の遂行状況を見て、9月から10月に「執行運営委員会」を開催し18年度からの改正案を策定する。

以 上

1月31日までに正副会長は、それぞれ特別委員会委員の報告も受けて、この提言に賛同の意を表した。

事務局は直ちに翌2月1日以降の会議においてこの提言に折込まれた改革の意図する所を説明し始めた。

2月16日(水)、3月4日(金)の運営委員会においては、この意向に沿った運営組織とするための理解され易い方法論についての討議を行った。

平成17年度年初収支暫定予算決まる

－1月26日－

平成17年1月26日(水)当協会会議室にて、12時より臨時理事会が開催された。これは定款第39条の定めにより、毎年4月1日より開始される新年度の当初については、総会にて議決される予算成立迄、執行すべき予算がない事から、この矛盾解決のため、暫定予算として理事会で(本来の主旨は総会を開催して)議決すべきものとされている事によるものである。

当日は引き続き拡大運営委員会を開催する事として予め各支部にもご案内し、各支部からの出席者と運営委員会出席者が委任状により各理事の代理を兼ねる形で開催された。臨時理事会内容については、議事録の抜粋を以下に掲載するので参考にされたい。

出欠状況 理事総数 25名中 出席理事16名 委任状出席 9名 計25名
 監事総数 3名中 出席監事 1名 委任状出席 2名 計 3名

出席理事氏名： 國分勘兵衛(代理 井口泰夫)、磯野 計一(代理 大竹一太郎)
 尾崎 弘(代理 佐藤 進)、吉野 芳夫(代理 竹田 勝之)
 水足 眞一(代理 吉田健治)、三枝 皓祐(代理 小林 由郎)
 鈴木 重一(代理 牧野和義)、桑島 敏彰(代理 澤田 悦守)
 本村 道生(代理 松尾 章)、西村 均(代理 浅井 久生)
 井岸松根 村山圭一 堀内琢夫 永津邦彦 竹内克之 市ノ瀬竹久

委任状出席理事： 後藤雅治 山本佳宏 津久浦慶之 上田 弘 加藤武雄 濱口吉右衛門
 中村成朗 柳川 信 塩田良英

出席監事： 牧 明夫

委任状出席監事： 萩原弥重 進藤大二

議 案 第1号議案 平成17年度年初収支暫定予算の件
 第2号議案 その他

定刻、事務局より開会の案内と本日の出欠状況を報告。理事会の成立を確認。

正・副会長いずれも代理出席なので、定款第14条3項に基づき議長として、専務理事の就任の是非について諮ったところ、異議なく承認されたので井岸松根専務理事が議長席に着席した。

議長は直ちに議事録署名人として、市ノ瀬竹久理事と村山圭一理事を指名し、了承を得たので議事に入った。

第1号議案 平成17年度年初収支暫定予算の件

議長より予算案と策定経緯について説明し、さらに事前に各理事・監事に質疑と賛否を問うた結果、全員質問もなく異議もなく賛成との回答文書を得ている旨の報告を行った。ここで改めて出席者に賛否質疑を問うたが、異議なく承認された。

なお、この暫定予算は5月に予定されている総会において議決される平成17年度収支予算に包含される事も併せて確認した。

第2号議案 その他

議長より出席者に問題提起の有無を諮ったが、何もなかった。

以上で、予定の議題の審議が終了したので議長より閉会を告げた。

以上

平成17年度収支年初収支暫定予算（案）

（自平成17年4月1日～平成17年5月27日）

1 収入の部

大科目	中科目	金額（円）
会費収入	会員会費収入	6,563,000
雑収入	雑収入	1,000
当期収入合計		6,564,000
前期繰越収支差額		2,482,998
収入合計		9,046,998

2 支出の部

大科目	中科目	金額（円）
事業費	調査研究事業費	1,200,000
	知識啓発事業費	1,800,000
管理費	人件費	2,000,000
	会議費	700,000
	事務諸費	1,728,000
当期支出合計		7,428,000
当期収支差額		▲864,000
次期繰越収支差額		1,618,998

議案内容について

定款第39条により、平成17年度年初（平成17年4月1日より平成17年5月25日（総会開催予定日）まで）暫定予算を次の如き立案方針で策定致しました。

収入の部であります。前期からの繰越分については平成16年度予算の翌期繰越金額としました。会費収入については、当局の指導に基づき、平成16年度実績の「12分の2（2ヶ月分の意）」としました。

支出については、調査研究費・知識啓発事業費ともに平成16年度実績を参考とし推計しました。人件費については、平成17年度見込み額にて算出しました。会議費と事務諸費については、16年度実績（2ヶ月間）と同額として算出致しました。

以 上

支部活動のあり方検討の時

－ 拡大運営委員会 －

前述の如く拡大運営委員会は、臨時理事会と一部を併催し、その直後の議題から全国各支部（中国支部のみ欠席）代表が出席し、総勢20名により開催された。

拡大運営委員会出席者名簿

支部・委員会	日食協役職	氏 名	社 名	役 職
北海道支部	支部長	村山 圭一	(株)スハラ食品	代表取締役社長
東北支部	支部長	堀内 琢夫	丸大堀内(株)	代表取締役社長
関東支部	支部長代理	田中 実	三井食品(株)	東京支社営業支援室主席
東海支部	支部長	永津 邦彦	(株)トーカン	代表取締役社長
北陸支部	副支部長	澤田 悦守	北陸中央食品(株)	代表取締役社長
近畿支部	支部長代理	佐藤 進	伊藤忠食品(株)	取締役西日本事業本部長
四国支部	支部長	竹内 克之	旭食品(株)	代表取締役会長
九州・沖縄支部	支部長代理	松尾 章	コゲツ産業(株)	常務取締役経営企画部長
本 部	理事代理	牧野 和義	(株)梅澤	取締役関東支社営業部長
運 営 委 員 会	副委員長	市ノ瀬竹久	(株)菱食	代表取締役副社長
〃	〃	大竹一太郎	(株)明治屋	流通事業本部流通統括部長
〃	委 員	浅井 久生	伊藤忠食品(株)	常勤顧問
〃	〃	折本 重則	(株)廣屋	常務取締役営業担当
〃	〃	小林 由朗	(株)サンヨー堂	取締役商品部部長
〃	〃	竹田 勝之	(株)日本アクセス	常務取締役管理本部長
〃	委員代理	吉田 健治	三井食品(株)	営業戦略本部長補佐
〃	副委員	井口 泰夫	国分(株)	取締役情報システム部長
本 部	運営委員長	井岸 松根	(社)日食協	専務理事
〃	事務局	奥山 則康	〃	事務局長
〃	〃	林 孝	〃	事業部長

当日の予定議題の一つであった平成17年度支部活動費予算の第一次原案の説明に入る前に、前年12月下旬以降の特別委員会における討議の内容とその方向について事務局より説明があった。（前項の特別委員会の正副会長に対する答申参照）その内容を受けての予算組みであったので緊縮予算案となった。

各支部の事業計画や意向と乖離があるようであれば、今後の申し出を待つて事務局で変更の上最終的予算案に折り込み理事会・総会に諮って行く事とした。

いずれにせよ、支部活動全般に亘り、各支部毎にそのあり方について再検討し、変更すべき点があれば今年の6～7月に開催予定の各支部総会で確認をとることとした。

平成17年 1 月 26 日

平成17年度支部活動費の予算案算出について

社団法人日本加工食品卸協会
事務局

平成17年度の事業計画については、特別委員会の意向をうけて運営委員会にて原案を作成する予定である。（3月中）従って現段階にて明確な予算を算定する事には無理があるが緊縮財政下にあるので削減を図る。

依って現段階にて考えられる必要経費（事務局推計）を算出すると、別紙の如くとなるのでこれを基本案として各支部と事務局で検討する事とする。

算出するに当って次の如き前年度方針を踏襲した。

- ① 研修会講師の講演料（講師の旅費を含む）については、公平を期するためにその費用負担は本部予算より支出する。（講師の選定及び交渉は原則各支部が行い、支払についてはいずれかで行い最終的に本部の「教育研修事業費」にて支出する。）
- ② 理事その他の役職員等が支部活動にともない発生した旅費交通費については、支部の事務局より、後日当人宛精算する事とする。

別紙の金額は

- ・総会会場費（食事代を含む）…………… 15年実績
- ・理事及び事務局員の活動旅費…………… 〃
- ・研修会会場費（食事代を含む）…………… 見込み額
- ・会員連絡費・事務用品代…………… 15年実績

にて算出しております。

以 上

平成17年度支部活動費 予算原案

(単位：千円)

支 部	17年度予算原案						16年度 予算合計	対前年 増 減	摘 要
	総会費	交通費	事務費	W・G費	研修会費	合計			
北海道	138	150	107	300	131	826	1,036	-210	事務局費減
東 北	164	50	3	0	160	377	776	-399	講師代減
関 東	344	67	3	163	100	677	1,188	-511	講師代減
東 海	93	180	20	40	0	333	607	-274	事務局関係
北 陸	140	70	20	0	140	370	455	-85	事務局費減
近 畿	470	60	130	0	400	1,060	1,340	-280	事務局費減
中 国	424	133	10	0	0	567	692	-125	事務局費減
四 国	220	140	12	0	0	372	437	-65	事務局費減
九 州	645	391	139	300	112	1,587	1,935	-348	事務局費・WG費減
計	2,638	1,241	444	803	1,043	6,169	8,466	-2,297	
摘 要	H15年並	H16年予算	支部長負担	ほぼH16年予算	会場費のみ				

消費税についての「申入れ」(案)について

—消費税対応WG—

平成17年1月18日(火) 消費税対応ワーキンググループが開催された。席上、鈴木清史氏(国分株)が作成した、行政当局に対する「申入れ」原案の内容を討議した。結果以下の如き「申入れ(案)」が出来た。事務局としては他の団体にも呼びかけ、タイミングを図り、財務省主税局他関係当局に提出する事とした。

平成17年 月 日

財務大臣 谷垣禎一 殿

社団法人 日本加工食品卸協会

事業者間取引における消費税の取扱について

拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃から加工食品卸売業界に対しまして、格別のご指導とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。早速ですが、消費税の取扱につきまして要望事項がございますので、申し述べさせていただきます。

少子高齢化社会を迎え、財政再建に向けて消費税は非常に重要な税金であると考えております。それだけに、公平な課税・公正な転嫁がなされ、透明度の高い制度で運用されるべきであると思料致します。平成9年4月1日施行の消費税法改正で、仕入税額控除につきまして、帳簿式を踏襲しながらも、請求書等の保存義務が創設されました。これは、イ

ンボイス方式への移行を想定したものと解釈し、また、税率改正の都度に価格を改定しなければならぬリスクの解消を目的に酒類業界は、内税方式から外税方式に変更した経緯があります。

そして、平成16年4月1日施行の消費税法改正で、消費者に対する商品等の取引価格の総額表示が義務付けられました。この改正を契機に一部の小売業者から消費者に対する表示のみならず、卸売業者との取引価格を内税価格に移行する要請があり、取引価格の改定が行われました。

本来は、税制の改正ですので本体価格に変動はないはずですが、本体価格プラス消費税額を内税価格に置き換える際に円未満の端数が発生し、膨大な価格改定作業を行うこととなりました。

そこで、今後の税率改定や複数税率の採用の可能性を勘案し、かつ公正な税の転嫁を実現し続けるために、以下の事項を要望します。

1. 事業者間における取引を外税方式とする業界の従来からの商慣行を尊重して下さい。総額表示の義務付けは、あくまでも消費者に対する表示の問題であり、事業者間の取引では、本体価格と消費税額を区分して表示することを原則とさせて下さい。従いまして、消費税法施行規則第22条1項端数処理の特例の継続適用をお願い致します。
2. 消費税における1円未満の端数処理方法を四捨五入に統一するよう法制化をお願いします。消費税の公正な転嫁の問題ですので、事業者間で有利不利があってはならず、消費税法改正の都度に価格の設定で調整が必要となっている現状の是正をお願いします。

敬 具

在庫回転日数調査

— 関東支部 流通業務委員会 —

平成17年2月25日(金)開催の流通業務委員会では平成16年度の計画事業の一つであった在庫回転日数調査の集計分析を行った。今回の担当は金井眞吾氏(国分株)であった。

結果の数値及び分析コメントは次の如くにまとめた。今回の調査から、この数値分析コメントについてはその結果を会報にて公開することとした。これは中間流通業の機能の実態を社会的に開示する事に依って、全員企業の参考とすると共に広く関係者に理解を求めて行く為に、進んで数値公開を試みるべきであるとの見解に達し実施したもの。

なお、分析コメントとしては触れなかったが、①そもそもこの調査を10年以上も前から実施して来ているが、当初の目的はキャッシュフローの改善を目的として始めたものである事、②今日では、専門問屋としての保管機能、総合卸売業としての資産回転、中間流通業としての生産性、という少なくとも3つの角度からの経営指標としての活用が考えられる事、③結果とし

てその3業態ごとに目標管理数値が異なる事等が問題提起された。

こうした新しいマネジメント概念が整理されてない現状を踏まえて敢えてこの調査報告をなすものである事が改めて確認された。

在庫回転日数調査

			企業数	平成16年度	企業数	平成15年度	増 減	対前年比%
対象拠点数			13	127	12	139	-12	
年間倉出金額 (百万円)	食品	計	12	505,712	11	444,507		
		平均		42,143		40,410	1,733	104.3
	酒類	計	7	252,046	7	227,266		
		平均		36,007		32,467	3,540	110.9
		合計	13	778,506	12	691,329		
	平均		59,885		57,611	2,274	103.9	
年間平均在庫金額 (百万円)	食品	計	12	13,653	11	11,458		
		平均		1,138		1,042	96	109.2
	酒類	計	7	5,644	7	6,023		
		平均		806		860	-54	93.7
		合計	13	19,763	12	17,961		
	平均		1,520		1,497	23	101.6	
年間平均在庫日数 (日)	食品		12	9.9	11	9.4	0.5	105.3
	酒類		7	8.2	7	9.7	-1.5	84.5
	合計		13	9.3	12	9.5	-0.2	97.9
坪当り倉出金額 (千円)	食品	計	10	39,836	10	32,746		
		平均		3,984		3,275	709	121.6
	酒類	計	5	41,192	6	41,351		
		平均		8,238		6,892	1,346	119.5
		合計	12	90,923	11	79,351		
	平均		7,577		7,214	363	105.0	
坪当り在庫金額 (千円)	食品	計	10	1,217	10	1,045		
		平均		122		105	17	116.2
	酒類	計	5	997	6	1,129		
		平均		199		188	11	105.9
		合計	12	2,474	11	2,367		
	平均		206		215	-9	95.8	

食品の回転日数は0.5日の悪化、酒類の回転日数は1.5日の改善、合計で0.2日の改善となった。各社キャッシュフローの改善の取り組みが強化されていると思うが、やや頭打ちの感じである。食品酒類の卸売業としてのあるべき適正在庫はどの程度なのか等（卸機能として）、参加企業各社の方針や考え方の確認や在庫管理手法について、意見交換が必要である。

坪あたりの売上/食品+酒類（平均）=7,214千円 ⇒ 7,577千円と363千円（5%程度）の改善となっている。

在庫/坪は、215千円 ⇒ 206千円と9千円の減少となっている。トータル面積の情報がないので在庫が減ったためか、面積が増えたためかは不明。昨今はパレット自動倉庫等の高度利用が進んだマテハン機器もかなり食品酒類物流センターでも導入されてきているので、今後、それら機器の面積生産性や作業生産性などの検討も必要と思われる。

勇気と自信を持って

—各地で新年会—

1月5日(水) 15時30分より東京・丸の内パレスホテルにて恒例の缶詰団体共催(当協会は幹事団体)の新年賀詞交換会が開催された。当日は(社)日本缶詰協会会長 後藤康雄氏(はごろも缶詰株)が主催団体を代表して開会のご挨拶を行った。挨拶の中で「災害の中で改めてビン・缶詰の有用性が認識され、それを提供し得る事に自信を持った。有用性は災害時のものだけではない事、現代食生活に重要な地位を占めている事の普及が我々の使命でもある。」と述べられ更に5つの事業方針に触れ「2000年を超える缶詰の歴史が証明する安全と品質に対する高い評価を得ているが、更に新しい発展を目指し、缶・ビン詰、レトルト食品の役割を高めた」と結んだ。このあと来賓として出席した常田享詳農林水産副大臣、福島啓史郎参議院議員の祝辞があった。続いて当協会会長 國分勘兵衛氏(国分株)が立って、「酉年である。酉という字は酒、酢、醬、酪、配の如く「食品」や「流通」に使われている。あやかって今年は食品と流通の年という事であるので勇気と自信を持って乗り切ろう」と、乾杯の挨拶を行った。日本全国各地から参集した参加者500名余、約1時間半に亘り賀詞交換が盛大に行なわれた。中締めには日本製缶協会会長 三木啓史氏(東洋製罐株)が挨拶しお開きとなった。

一方関西における近畿支部では同じ1月5日(水)、大阪・太閤園で、大阪府食品卸同業会と食品新聞社の3社の主催する「大阪食品業界新春名刺交換会」を開催した。

食品新聞社社長 大井 眞氏の開会挨拶のあと、主催者を代表して当協会近畿支部長 尾崎弘氏(伊藤忠食品株)が「年を追う毎に本会が盛会となっている事に主催者を代表して御礼申し上げます。今年こそは、製配販三層がそれぞれ適正利潤を得られるよう健全化の努力をしなければならない。本年は早々にビールの価格改訂がなされるが、業界全般に於ける「安売り至上主義」を今年限りで終焉させる方向に、業界が一丸となって推進せねばならない。流通の各段階でのそれぞれの努力に期待したい。」と挨拶。引続いて、来賓を代表し近畿農政局局長 小川雅典氏が挨拶、乾杯の音頭を大阪府食品卸同業会会長 古瀬雅道氏がとった。

参加者221社約760人が華やかに賀詞交換を行った後、当近畿支部副支部長 羽入田武久氏(加藤産業株)が中締めを行った。

更に、九州においては、当協会九州沖縄支部主催の「平成17年度新年交礼会」が同じ1月5日(水)ホテル日航福岡で開催された。九州沖縄支部支部長 本村道生氏(コゲツ産業株)は「昨年は災害の多い一年であった。日本経済は回復基調といわれるが、中国ブームに関係する産業等一部はともかく、われわれの消費環境は厳しい状況にある事はいふ迄もない。ダイエーの産業再生機構介入等は、大きな曲り角であり、次の再編への流れとなっている。その中で「日食協」はどうあるべきか。一企業でなし得ない事を賛助会員含めて、業界発展のために事業活動を続ける事になる。本部では全体的な活動指針や施策を打出すが、地域は地域として活

動を進め、取引の正常化、業界秩序のために、今後も力を入れていく。」と挨拶。続いて賛助会員代表として品田英明氏（味の素㈱）が「（前略）今年もグローバル化、低価格化、安心安全志向、少子高齢化、消費の二極化がテーマとなろう。厳しい社会の目から高い評価を得る。顧客と社会の満足度を上げねばならない。秩序ある競争、透明性のある取引、適切な労働環境など社会的評価が得られるか、問われる一年となろう。今年は小売業も含めてこの二つの満足度を上げる努力が求められる。この事が業界の発展と有力な人材確保につながるものと思う。ご理解とご協力をお願いします。」と挨拶し乾杯の音頭をとった。中締めは当九州沖縄支部副支部長 柳川 信氏（ヤマエ久野㈱）が行った。

九州地区ではこのあと6日(木)は鹿児島二十日会（会長 竹之下勝三氏（㈱竹之下）が鹿児島サンロイヤルホテルで「新年賀詞交換会」。7日(金)は宮崎はまゆう会（会長 平林義光氏（平林食品㈱）が宮崎観光ホテルで「新春賀詞交歓会」。同日、大分食品共栄会（会長 阪本恒徳氏（㈱三久食品）が東洋ホテルで「新年交礼会」。11日(火)には長崎長友会（代表幹事 佐藤 恂氏（伊藤忠食品㈱）が長崎プリンスホテルで「新年交礼会」を開催した。

かたや、北海道支部では1月7日(金)に札幌京王プラザホテルにおいて「加工食品業界新年交礼会」を開催した。冒頭、北海道支部支部長 村山圭一氏（㈱スハラ食品）が「昨年のよい出来事を振り返ると五輪での日本選手、大リーグのイチロー選手、甲子園での駒大苫小牧高校等の活躍があり、苦しい時代に求められる勇気と夢を若い力が与えてくれた。今年のキーワードは(1)食の安心・安心とトレサビリティ、(2)少子高齢化と健康、(3)企業倫理と公平・公正である。この3つを前提とすると競争の多様化を促すが、その方向性が重要になっている。今までは大きい事を美德とする意識で歩んできたが、戦後60年それを考え直す時が来た」と開会の挨拶を行った。

続いて賛助会員世話人会代表 星野国幸氏（味の素㈱）は「乙酉年は物事が盛り上り成熟していく一方、枯れていく年で、怠けていると市場から退場を余儀なくされてしまう1年である。メーカーが求められている役割として、少子高齢化で消費が複雑化する、量販店では店頭オペレーションのスピードアップが必要、それに対応することこそ大切。これまでの経験則や固執した考えは通用しない」と挨拶された。

乾杯は福山醸造㈱の福山耕司氏が音頭をとった。

参加者138社約320名が参加、新年の決意を新たにした。中締めは北海道支部副支部長 山本佳宏氏（杉野雪印アクセス㈱）が行った。

今日の役割を求めて

—SKDBC—

酒類加工食品データベースセンター（略称SKDBC）の常任運営委員会が平成17年2月7日開催された。今回は、4月から始まる新年度の総会において、役員改選（1期2年、全員任期満了）が予定されるが、過去6年間留任で来た役員体制でもあり、改めてSKDBCの今日の役割を求めて気分一新し、新体制の役員候補を立てるべく事務局が提起し、開催されたもの

である。

事務局サイドで考えると、当業界の標準化については未だに遅々たる歩みであり、多様性を容認せざるを得ない現況にある。そこにそれぞれの理由はあるにせよ、過去の経緯を背負ったまま、むしろ積み重ねられて「スタンダード」が存在し、メンテナンスが発生している。これ等に取り組む業界内唯一の機構がこのSKDBCであり、そこに情報を持込める、また前向きに活動する委員を新たに選任するべき時と考えたのである。

当日はこの事が理解できず「SKDECが余計な事をしない方が良い」とする意見にしばられている委員もいたので、具体的解決案の議論にまで至らなかった。このニュアンスをできる限り正確にお伝えするべく今回はSKDBCの常任委員会議事録の一部を抜粋し以下に掲載する事とした。

なお、2月8日(火) 情報システム委員会においても「㈱ファイネット殿に全てを移管した訳ではなく、そこではとり上げられないテーマについて語り合う唯一の常設機関である」との意見もあり、SKDBCの次期体制候補者案づくりを現運営委員長と事務局(当協会)の両者に一任して、今後の活動を期待する所となった。

出席者10名(敬称略 順不同)

(委員)

鎌田運営委員長、柴田、西川、田島、小浜、稲垣、寺田、斉藤、首藤、井岸

(オブザーバー)

奥山、井口、澁谷、永松

委員長挨拶

通常総会も控えており、今後のSKDBCの役割等の議論をし、来年度事業方針も決めていきたい。

議 事

1. 関連事業報告(事務局)

- ・情報システム研修会を3者共催(日食協、中央会、SKDBC)で開催。
予算外事業であったため、「仮受金」、「仮払金」処理してある。本日了解いただければ、「雑収入」、「事業費」として計上したい。
- ・受発注システムの変更があり、SKDBC会員に向け、日食協より情報伝達を行った。
- ・収支計算書の説明と今後の見通しに関して事務局より説明。
17年度への繰越見通しは、1,903,792円となっている。
17年度の最低支出は194,632円となる。
- ・会員の内訳は、卸49社、メーカー142社、共同利用61社、その他25社の合計277社。

2. 役員改選について

事業目的を再確認した上で、役員改選を議論したい。(議長)

(1) 事業目的の確認

◇ 平成17年度で7年目に入るが、ちょうど役員の改選時期にあたる。

これまでの経緯と昨今の諸事情から、事業が新たに起こると思えず、事業の目的を再確認した上で、これだけの人数が必要であるか、議論していただきたい。

当初の目的は、商品情報データベース、および標準化に関する事業ということで設立。商品情報DBに関しては、ファイネット様に事業移管、残る標準化に関してはどのようにしていくのか、当時に議論し、規約を改正して確認した。

しかし、SKDBCとして標準化に関しては何をしていくのか、今一つ理解合意が得られていない。因みに取引先コード小委員会では、取引先コードの標準化に関する議論をしていただき、業界として指針を出し、情報伝達をしてきている。昨今は無視されているかも知れないが、設立準備委員会では、運営委員の選出基準も議論し決めてきた。

◇ のちに統合される酒類業界のデータベースは、当初中小企業庁の予算をもらって進めてきたが、その中で中小企業だけで持つか、中小企業の近代化を進めることになるのか、と言われてきた。この観点からどうしたら活用できるかという事をなすべきである。

◇ 99年SKDBCの設立当初は標準化に対する危機感が一部にしかなかった。その後国内の大きな流れでは、日本における世界標準「GCIジャパン」という動きがあり、食品業界に係らず標準化の推進をしようという流れになっている。標準化にはピンからキリまであり、ファイネットは狭い世界ながら酒類・加工食品卸・メーカー間で、固定長フォーマットをどうして行くか、商品DB、商品画像等々、WGで進めている。ファイネットでは取りこぼされてしまうテーマがどれくらいあるのか？

ファイネットが取り上げていない問題、というよりも課題として纏めきれない、あるいは優先順位の問題ではないか？SKDBCがニーズを吸い上げてうまくまとめ上げられるのか、疑問がある。中小企業を中心とした声なき声を吸い上げてぶつけていくスキームを作らないとうまくいかないのではないか。

◇ 日食協の如き業界団体では会員全体のことを考えねばならない立場にある。

たまたまこの場は大企業の方々がお集まりだが、中小企業の方では、思いもつかないことが障害となっていたり、問い合わせの窓口すらわからない企業もいる。運営委員の中にはファイネットのような企業が入っていないと困るし、大企業だけでも困ることが起こる。標準化の策定はファイネットであることに間違いはない。それに逆行するようなことを考えてはいけない。

バランスをとった運営委員構成をするべきだと思う。ファイネットで標準化を推進する、それについていこうとする中小企業を引き上げてやる機関も必要ではないか。

◇ 個人的意見は、積極的に役割を広げることは避けるべき。

補助金の関連もありまだ解散するわけには行かない。

◇ 補助金との関係はない。検討事項を吸い上げて協議する機関が必要なのである。

◇ 例えば取引先コードの標準化は、現在ではファイネットでGLNをベースに流通システム開発センターとも連携して議論をしている。このように他にやるべき事はないのではないか。

◇ 現在の取引先コードとどう連携をするのか、不安もあり、方向性を知りたいが、その方法もないのが中小規模のユーザーではないか。

(2) 次期運営体制について

◇ 設立以来6年間異動がないのもどうかと思う。半分ぐらいは入れ替わったほうがいいだろう。

SKDBCとしては、ファイネット様の集まってこない情報も収集する必要がある。

また、日食協標準システムは、冊子としては第3版まであり、個別システムではまたそれぞれのバージョンが存在している。

EDIワーキンググループでは過去のバージョンのメンテナンスはお手上げである、との意見が出ている。

これは一例であるが、事務局としてはこれらの問題を取り上げてSKDBCとして議論、協議する必要があると考えている。

情報システム研修会は、流通システム開発センターやファイネット様の会合に出席していない関係者に対する説明をする唯一の場になっている。

また、ファイネット様との協議事項であるが、FDBの普及、登録推進はファイネット様にお任せだけではいけないのではないかと考えている。

運営委員として、問題提起を持ってきていただける方を選出すべきではないかと事務局では考える。

- ◇ 標準化を進める中で、ファイネットに加盟していない企業への情報伝達を目的とする可能性はあると思うが、ファイネットの情報伝達から漏れる企業が実態としてどれくらい残るか。

販促金システム等の議論を進めていくには、現状の予算を見るとかなり厳しいのではないかとと思う。

- ◇ データベース、標準化も含めファイネットに移行している、との認識が強い。

SKDBC運営委員会に、業界課題を持ち寄る、と言うことになると社内体制も含め見直す必要があると感じる。

- ◇ 標準化ということで考えると、各企業が意思を持って取り組んでいるはずで、FDBやファイネットへの不参加企業に標準化ニーズがあるのか疑問。

- ◇ 意見を言うベースがなく、今日の議論をうかがった上で社に持ち帰り意見をお話したい。

- ◇ ファイネットとSKDBCの補完関係にあるのは周知のことであるが、ファイネットではカバーしきれないことがあるのも認識している。卸、メーカーで同じ土俵で会話ができる場は必要であると考える。

- ◇ 標準化に関してはファイネットの分科会で議論をされているが、日食協情報システム委員会で卸の立場から出ている問題のうち、ファイネットでの議論にそぐわない課題もある。そういった問題はSKDBCで議論を進める必要があると感じる。

- ◇ メーカーさんと意見が少々異なるかもしれないが、国分さんの意見と同感であり、またファイネットに物申せない雰囲気があるのではないかと？

そういう意味でこの場は必要と思っている。

- ◇ 大きな事業活動やさし当たってのテーマもないと予測されるので少人数でも良いのでは。

- ◇ 現在のメンバーで2、3社は残さねばならない。監事は現在の運営委員の中から選出すべきであろう。委員はだいたい10名程度ではないか。

- ◇ 出席率の低いメンバーはこの際選出すべきではない。

- ◇ 事業目的について十分な合意が得られていない現状を考えれば少人数で協議できる体制

にする事が肝要である。

- ◇ 現実的に中小企業の意見を吸い上げられる団体として、現在の団体以外にどこが考えられるか？
- ◇ 賛助会員が中心になるのではないかと思う。ファイネットを中心に、SDN、NRI、中央会、日食協。全国酒販協同組合連合会の意見は中央会で集約して欲しい。
- ◇ 卸・メーカー、酒・加工食品はバランスをとったほうが良いだろう。
- ◇ 運営委員体制はスリム化の方向で事務局と検討したいと思うので一任してほしい。
- ◇ 運営委員長と事務局で次期運営委員候補を選出し、次回の運営委員会に、総会選出議案の一つとして発表する事とする。

3. その他

次回の運営委員会：3月30日(水) 14:00～ 日食協会議室

通常総会：4月25日(月) 15:00～ 日食協会議室

マーチャングアイジング連絡

食品表示に係る取組みの方向

—日本チェーンストア協会—

平成16年10月に日本チェーンストア協会が、食品表示に係る自主的な取組みの改正の基本を公表した。偽装表示等の不本意な問題は、一部悪質業者のために惹き起されものとはいえ、消費者から信頼を失ってしまった事は現実である。これを挽回するべく、報道機関を通じてなされたものである。内容は今回は生鮮食品に関するものであって、我々のメイン商材ではないが、今後の販売者側の意図を明確にするものである。以下に掲載するものである。

食品表示に係る自主的な取組みの改正について

日本チェーンストア協会
制定・平成14年5月
改定・平成16年10月

平成14年初めの食肉取扱企業の牛肉偽装事件に端を発した食品の偽装表示は、生活者の食品の表示に対する信頼を損ねてしまいました。

当協会会員企業は、従来より、JAS法、食品衛生法、景品表示法等関係法令や関係公正競争規約の遵守に努めてきたところですが、生活者の食品の表示に対する信頼を早急に回復させる観点から、会員企業が表示を行なう際の基準として、『食品表示に係る自主的な取組みについて』を平成14年5月に定め、同年9月から、完全実施してきております。

その後の厚生労働省、農林水産省共催の「食品の表示に関する共同会議」での検討状況、健康増進法の改正、景品表示法の改正、食肉公正競争規約の改正の動きなど表示をめぐる状況の変化、より詳しいかつより分かりやすい表示を求める生活者の要望に適切に対応する観点から、現行の『食品表示に係る自主的取組みについて』を下記のとおり改正します。

なお、改正部分につきましては、会員企業の取引実態等を考慮するとともに、周知期間が必要なことから、平成17年4月1日から完全実施します。

記

- I. 仕入時の表示を徹底する。
- II. 適正な表示を徹底する。
- III. 生活者に誤認を与える恐れのある表示は行なわないこととする。

《食肉について》

1. 銘柄牛肉・豚肉・鶏肉（在来鶏を含む）については、銘柄名と極めて類似した紛らわしい表示は行なわない。
2. 牛肉・豚肉・鶏肉において、「特選」、「極上」等の表示は品質の誤認を招きやすいことから、表示しないこととする。
3. 黒毛和種とホルスタインとを交配した交雑種牛の表示については、黒毛牛、黒牛など黒毛和牛と極めて類似した表示は行なわず「国産牛肉」、「国産牛肉（交雑種）」または「〇〇牛は黒毛和種とホルスタインをかけあわせたものです。」等と店頭表示する。
4. 加工の程度が比較的低い食肉加工品については、原材料に占める重量の割合が50%以上の品目、または重量の多い順に上位3品目の原料原産地表示を行なうこととする。

（表示例）

- たれに漬け込んだものを販売する場合

名 称：牛肉味付け焼肉用 原材料名：牛肉（オーストラリア）

- 異なる種類の食肉を盛り付けて販売する場合

名 称：焼肉セット 原材料名：牛肉（オーストラリア） 豚肉（アメリカ） 鶏肉（国産）

《青果物について》

1. 化学合成農薬及び化学肥料の双方を50%以上節減して栽培された農産物の表示は、農林水産省の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン（平成15年5月26日15総合第950号）」に沿って行なう。
2. 青果物のみが原材料になっている青果物加工品については、原材料に占める重量の割合が50%以上の品目、または重量の多い順に上位3品目の原料原産地を表示することとする。

(表示例)

○異種混合したカット野菜を販売する場合

名 称：カット野菜
原材料名：レタス（国産）、きゅうり（国産）、パプリカ（オランダ）

《水産物について》

1. 水産物の名称表示については、水産庁の「魚介類の名称のガイドライン（中間とりまとめ）（平成15年3月）」に沿って行なうこととする。
2. 水産物の水域名を記載するに当たっては、水産庁の「生鮮魚介類の生産水域名の表示のガイドライン（平成15年6月）」に沿って行なうこととする。
3. まぐろについては、輸入品の場合には水域名を併記する。
4. 加工の程度が比較的低い水産物加工品については、原材料に占める重量の割合が50%以上の品目、または重量の多い順に上位3品目の原料原産地表示を行うこととする。
5. 刺身盛り合わせについては、水産庁の「刺身盛り合わせの原料原産地等表示自主指針（平成15年6月）」に沿って行なうよう努めるものとする。また、原料原産地を表示する品目は、当面、当該店舗における主力の5品目とする。

(ボードによる一括表示例)

品 名	原 産 地	養 殖	解 凍
みなみまぐろ	オーストラリア	○	○
まだい	愛媛県	○	
ぶり	鹿児島県	○	
するめいか	北海道沖		○
甘えび	デンマーク		○

※上記以外の原材料が入荷する場合がありますので、詳しくは売場係員までお尋ねください。

6. 水産物（切り身等）のみが原材料になっている鍋ものセットについては、原材料に占める重量の多い順に上位3品目の原料原産地を、容器・包装又はPOP等に表示することとする。

《加工食品について》

1. 生鮮食品を切断して異種混合した加工の程度が比較的低い加工食品については、原材料に占める重量の割合が50%以上の品目、または重量の多い順に上位3品目の原料原産地表示を行うこととする。
2. ただし、食肉または水産物（切り身等）と青果物等を異種混合した鍋ものセット等については、食肉、水産物（切り身等）の重量の割合が多い順に上位3品目の原料原産地を容器・包装又はPOP等に表示することとする。なお、加熱等処理した原材料については対象外とする。

(表示例)

○食肉・青果物をセットにした場合

名 称：すき焼きセット 原材料名：牛肉（オーストラリア）、白菜、ねぎ、春菊、豆腐、
--

○水産物（切り身等）・青果物をセットにした場合

名 称：寄せ鍋セット 原材料名：たら（アラスカ）、さけ（国産）、えび（インドネシア）、白菜、ねぎ

○食肉・水産物（切り身等）・青果物をセットにした場合

名 称：寄せ鍋セット 原材料名：たら（アラスカ）、えび（インドネシア）、鶏肉（国産）、白菜、ねぎ

3. 加工食品（弁当・惣菜等）については、「特選」、「極上」等の表示は品質の誤認を招きやすいことから、表示しないこととする。

IV. 生活者の食の安全・安心を確保するための表示を徹底する。

《加工食品（弁当・惣菜等）について》

1. 加工食品（弁当・惣菜等）のアレルギー表示については、義務表示対象品目を表示するほか、奨励表示対象品目についてもPOP等を活用し、表示するよう努めるものとする。

(表示例)

名 称：ポテトサラダ 原材料名：じゃがいも、にんじん、ハム（卵、豚肉を含む）、マヨネーズ（大豆油を含む）、たんぱく加水分解物（牛肉、さけ、さば、ゼラチンを含む）、調味料（アミノ酸等）
--

(例) 「原材料の一部に卵、豚肉、大豆油、牛肉、さけ、さば、ゼラチンを含む」とPOP等を活用し表示

なお、ここでいうアレルギー表示を行なう品目については、次のとおりです。

食 品 衛 生 法	表示が義務付けられているもの (5品目)	小麦、卵、乳、そば、落花生
	表示を奨励するもの(19品目)	あわび、いか、いくら、えび、オレンジ、かに、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン、(バナナ)

※上記の「(バナナ)」については、厚生労働省において、現在、表示を奨励するものとして検討されている品目です。

2. 加工食品（弁当・惣菜等）のカロリー表示又は栄養成分表示については、POP等を活用し、表示するよう努めるものとする。

（表示例）

栄養成分表示	1食あたり	栄養成分表示	1食あたり
エネルギー	625Kcal	炭水化物	103.6g
蛋白質	19.7g	ナトリウム	1048mg
脂質	14.5g	カルシウム	105mg

《留意点》

1. 自社独自の表示を行なう際には、社内基準等を策定する等して、生活者から問い合わせ等があった際には、適切に対応できるようにして下さい。
2. 表示内容については、生活者等から問い合わせ等があった際に、適切に対応できるようにして下さい。

以上

優越的地位の乱用防止のために一歩前進

— 公正取引委員会 —

平成17年2月4日、公正取引委員会の呼び出しを受けて事務局が、霞ヶ関の庁舎に赴いた所、公正取引委員会の企業取引課より、「実態調査」結果の概要報告と「告示改正」の骨子説明がなされた。

以下当日の資料をここに掲載するので参考とされたい。なお、改正骨子についてはこれから公開ヒアリングなどの機会を設けるとの事であった。当日は異業種の“卸売業”の団体からもいろいろと質問が出ていたが当事務局としては過去からの当協会の研究成果に基づく見解を表明しておいた。改正の方向は是とするものの、過当競争化における商慣行の是正には、まだ改正の余地を多く残す状態である事を強調した。

大規模小売業者と納入業者との取引に関する実態調査の結果について

平成17年2月2日
公正取引委員会

1 調査の趣旨

公正取引委員会は、大規模小売業者と当該事業者が商品を納入している事業者（以下「納入業者」という。）との納入取引について、従来から、その公正化を図る観点から、納入取引におけるルール明確化、実態調査に基づく改善指導、違反行為に対する措置等を講じてきているところである。

納入取引における基本的ルールとして、公正取引委員会は、大規模小売業者の納入業者に対する優越的地位の濫用行為を規制する「百貨店業における特定の不公正な取引方法」（昭和29年公正取引委員会告示第7号。以下「百貨店業告示」という。）を定めている。百貨店業告示は、いわゆる百貨店、スーパー等を規制対象とするものであるが、百貨店業告示で規定している禁止行為については、昭和29年の制定当初の規定が現在まで維持されている（ただし、景品提供に係る規定は平成8年に削除されている。）。

しかし、近年大規模小売業者については百貨店、スーパーのほか、衣料、家電医薬品・化粧品等の専門量販店、ホームセンター、コンビニエンスストア本部等の業種や業態が多様化するとともに、その規模等も拡大している。このような中で、大規模小売業者による納入取引上の問題についての指摘も増加しているなど、百貨店業告示は必ずしも現在の流通の実態にそぐわなくなっている。そこで、百貨店業告示の見直しを行い、大規模小売業者による優越的地位の濫用行為を効果的に規制する告示（以下「新告示」という。）を制定することを検討する旨、昨年9月22日に公表したところであるが、その一環として、大規模小売業者と納入業者との取引の実態について、改めて書面調査を実施したものである。

2 調査対象及び調査方法

大規模小売業者及び納入業者を対象に書面調査を実施した。調査票の発送数及び回答状況は以下のとおりである。

	発送数	回答数	回答率
納入業者	6,000社	1,415社	23.6%
大規模小売業者	350社	232社	66.3%

(注1) 納入業者に対する書面調査においては、大規模小売業者を、①百貨店、②大型総合スーパー、③ホームセンター、④専門量販店、⑤コンビニエンスストア、⑥ディスカウントストア、⑦ドラッグストア、⑧通販業者及び⑨その他の大規模小売業者（地域における有力なスーパー、生協等）と区分している。

(注2) 納入業者は、①衣料品・繊維製品、②食料品・飲料、③酒類、④トイレタリー・化粧品・医薬品、⑤家庭用品・その他の商品、⑥家庭用電気製品のいずれかを取り扱っている事業者の中から無作為に抽出した。

3 調査対象行為類型等

(1) 公正取引委員会は、これまで定期的に大規模小売業者と納入業者との取引実態調査を実施し、その結果を公表（最近では、平成11年及び平成14年）してきているところであるが、これらの調査結果や納入業者からのヒアリング等を踏まえ次の行為について調査を実施した。

・返品	・不当な要請を断ったことによる不利益な取扱い
・商品納入後の値引き要請	・商品やサービスの購入要請
・買取仕入れから委託仕入れ方式への変更要請	・協賛金等の負担要請
・特売、創業祭等における低価格納入の要請	・物流センターの設置等に伴う費用の負担要請
・プライベート・ブランド商品の受領拒否	・多頻度小口配送の要請
・従業員等の派遣要請	・その他

(2) また、昨年4月の改正消費税法に基づく総額表示方式の実施後の大規模小売業者と納入業者との取引状況についても、今回、併せて調査を実施した。

4 調査実施期間

(1) 調査票発送日：平成16年10月12日

(2) 回答期限：平成16年10月26日

(書面調査の対象期間は、平成15年10月～平成16年9月である。)

5 調査結果の概要

(1) 納入業者に対する調査において、指摘の多かった納入取引上問題となる行為

ア 百貨店業告示に規定されている行為

① 返品(「返品を受けたことがある」〔約80%〕のうち「不当な返品がある」〔約63%])

- ・店舗・売場改装等に伴い不要となった商品の返品
- ・展示等により汚損・き損した商品の返品 等

② 従業員等の派遣要請(「要請を受けたことがある」〔約55%〕のうち「不当な要請がある」〔約68%])

- ・棚卸、棚替え、社内事務等のための派遣要請
- ・納入商品の販売促進等により得られる利益の範囲を超えた派遣要請等

③ 商品納入後の値引き要請(「不当な商品納入後の値引き要請」〔約23%])

- ・セールで値引き販売したことを理由とする値引き要請
- ・決算対策を理由とする値引き要請 等

イ 百貨店業告示に規定されていない行為

① 協賛金等の負担要請

(「要請を受けたことがある」〔約63%〕のうち「不当な要請がある」〔約69%])

- ・催事(創業祭等)、売場改装広告等のための費用負担要請
- ・納入商品の販売促進等により得られる利益の範囲を超えた協賛金等の要請 等

② 物流センターの設置等に伴う費用の負担要請(「負担している事例がある」〔約74%])のうち「一方的に要請された」〔約46%])

③ 商品やサービスの購入要請(「不当な商品やサービスの購入要請」〔約33%])

(2) 前回の調査(平成14年)では、納入業者調査において大規模小売業者として区分していた業態は、①百貨店、②スーパー、③専門量販店、④コンビニエンスストアであったが、今回の調査ではこれらの業態のほかに、⑤ホームセンター⑥ディスカウントストア、⑦ドラッグストア、⑧通販業者を加えたところ、これらの新しく加えた業態においても、納入取引上の問題がみられた。

6 今後の対応

(1) 百貨店業告示の見直しを行い、早急に新告示の策定を行う。

(2) 大規模小売業者の納入業者に対する優越的地位の濫用行為について、具体的な情報に接した場合には調査の上、厳正に対処する。

- (3) 関係事業者団体に対して傘下会員の独占禁止法遵守体制の整備について、指導を要請する。

問い合わせ先	公正取引委員会事務総局経済取引局取引部企業取引課 電話 03-3581-3373 (直通) ホームページ http://www.jftc.go.jp
--------	--

新告示の骨子（案）

- 1 新告示の題名は、「大規模小売業者による納入業者との取引における特定の不公正な取引方法」とする。
- 2 適用対象となる小売業者
以下のいずれかの要件を満たす小売業者（以下「大規模小売業者」という。）
 - ① 年間売上高が100億円以上であること
又は
 - ② 売場面積が1500㎡以上（東京都23区及び政令指定都市は3000㎡）の店舗を有すること
なお、大規模小売業者には、フランチャイズ・チェーン本部を含むものとする（①の売上高には加盟店の売上高を含む。）。
- 3 適用対象となる取引の相手方
大規模小売業者が販売（委託販売を含む。）する商品を納入する事業者（以下「納入業者」という。）。
ただし、納入業者の売上高当該大規模小売業者との取引の額等に照らして、その取引上の地位が当該大規模小売業者に対して劣っていないと認められる者を除く。
- 4 不公正な取引方法（禁止行為）
 - ア 不当な返品
納入業者から購入した商品を返品すること。
ただし、
 - ① 商品に暇疵があった場合
 - ② 注文した商品と異なっていた場合
 - ③ 一定の期間における一定の数量の範囲内又は納品の総量に対して一定の数量の範囲内において返品を行うことが正常な商慣行となっており、返品条件についてあらかじめ納入業者の同意を得ている場合
 - ④ 返品により生じる損失を大規模小売業者が負担する場合
 - ⑤ 返品を受けることが納入業者の利益となり、当該納入業者が申し出た場合には返品することができる。

[原則として、現行の百貨店業告示第1項を維持する。なお、同項第3号については、返品条件を明確にする旨追加する。]
 - イ 不当な値引き
商品購入後、商品の納入価格を値引くこと。
ただし、①商品に暇疵があった場合、②注文した商品と異なっていた場合には、その正当な金額の範囲内で値引くことができる。
[原則として、現行の百貨店業告示第2項を維持する。]

ウ 不当な委託仕入れ

納入業者に著しく不利益となるような条件で委託販売取引をさせること。

[原則として、現行の百貨店業告示第3項を維持する。]

エ 特売用商品の買ったたき

特売向け等の商品について、大規模小売業者の通常の納入価格に比べ、著しく低い価格で納入させること。

[原則として、現行の百貨店業告示第4項を維持する。ただし、同項中、「一般の卸売価格」の読み方によっては、ボリュームディスカウント等合理的理由に基づく低価格納入のようなケースであっても、独占禁止法上問題となりかねない規定となっているため、所要の修正を行うこととする。]

オ P B商品の受領拒否

P B商品について受領を拒否すること。

[原則として、現行の百貨店業告示第5項を維持する。]

カ 不当に従業員等を派遣させること

商品の販売その他の業務のために納入業者の従業員等を派遣させること。

ただし、

- ① あらかじめ納入業者の同意を得て、その従業員等を当該納入業者が納入する商品の販売業務のみに従事させる場合（その従業員等が常時当該商品の販売業務に従事している場合には、当該商品の販売及び棚卸業務のみに従事させる場合）であって、かつ、当該業務に従事させて、その従業員等が有する販売に関する技術又は能力が有効に活用されることにより当該納入業者の直接の利益となるとき
- ② 従業員等の派遣のために通常必要な費用を大規模小売業者が負担し、かつ、従業員等の派遣の条件についてあらかじめ納入業者の同意を得ている場合には派遣させることができる。

キ 商品を購入させ、役務を利用させること

正当な理由がある場合を除き、商品を購入させ、又は役務を利用させること。

ク 不当な経済上の利益を提供させること

- ① 本来、納入業者が提供する必要のない（例えば決算対策協力金）、又は、
- ② 提供の目的等を勘案して合理的な範囲を超えて、金銭役務その他の経済上の利益を提供させること。

ケ 要求拒否に対する制裁

前記ア～クの要求を拒否した納入業者に対し、支払遅延取引停止等の不利益な取扱いをすること。

[原則として、現行の百貨店業告示第7項を維持する。]

コ 公取委への通報に対する制裁

納入業者が前記ア～クの事実を公取委に知らせた場合に、当該納入業者に対し、支払遅延、取引停止等の不利益な扱いをすること。

以 上

2005年の日本政治と経済を展望する

—白鷗大学教授 福岡政行氏—

近畿支部では2月24日(木) 15時より、大阪・太閤園にて、大阪府食品卸同業会との共催で経営実務研修会を開催した。講師には白鷗大学教授福岡政行氏をお招きして「2005年の日本政治と経済を展望する」と題する講演をして頂いた。1時間45分に亘り、テレビ等でおなじみの先生の歯切れの良い大胆予測をお伺いして、大変に有意義な研修会となった。盛況裡に17業時過ぎより懇親会に移行し、楽しい一日となった。この時の講演の要旨を以下に掲載する。

福岡でございます。今、火曜日に京都立命館大学に来て、夕刻「ABC」というテレビ局の番組で大阪市と喧嘩をしております。税金を有効に使うということが、私のモットーでありますので、その事を含めて最後にチョットお話を申し上げますが、おそらく消費税を15%に上げるか或いは全国の国家公務員、地方公務員の総給与、退職金約40兆円になりますが、それを2割ほどカットしてその分で消費税を少し下げるとか、いろんな話がありますが、そんなことを含めて今日、非常に流動的でありまして、昨日たまたま赤坂で安部晋三さんとスレ違いました、「いやあ、先生いろいろ謀略がありますよ」といわれたが、どういう意味かわからないので、今、外で政治部に電話しましたら、安部晋三さんがポスト小泉を確実にする為に、北朝鮮に密使を送ったという情報が流れて、これがいわゆる北側のやらせとか捏造とか、そんなことがありました。

1. 郵政民営化花道論

冒頭に、おそらく小泉さんは「郵政民営化花道論」というものが、今月に入って、特にこの2週間、特に昨日の夜、綿貫民輔さんを中心に亀井静香さん、高村、平沼、もちろん古賀誠も入りました。野田聖子も入りましたが、59人が集まりました。最初は、本当に十数人、二度目が今回で59人、3回目は3月上旬になりますがおそらく、100人近い形で郵政民営化反対のグループが集まりますが、この花道論が急浮上していますが、結論的に申し上げますと、郵政民営化の賛成、反対という枠組みと同時に、世代交代、一気に安部晋三に小泉さんが持っていく説があります。選挙になればもう安部晋三しか戦えないというところが自民党にはあります。世代交代という縦軸と郵政民営化賛成、反対という横軸との2次方程式の中で、どうもこの政局が動き始めた。それが特に、この数日間の動きでますます見えにくくなりましたが、おそらく郵政民営化花道論が全てであろうかと思う。

2. 靖国神社参拝問題

傍証を何遍か言います。まず、1月1日去年は靖国神社に小泉さん行かれました。今年は何も行っていない。つまり、もう一年以上、靖国に行っていないという事は、小泉さんにとっては

非常に心面白くない部分であります。それは鹿児島県出身の人はおわかりのように、鹿児島県出身の小泉又次郎の娘婿になった小泉純也防衛庁長官、旧姓鮫島。鹿児島県加世田出身です。特攻隊の少年達が住んでいる宿舎のあった所で、その隣が特攻隊の資料館のある知覧町です。

“今日私は日本のために、命を捨てます”という日記といますか遺書というか、あそここのところであります。この小泉さんが行かない、これは後ほどふれます。愛知万博に中国の温家宝首相を呼んで、可能であれば、その返礼に6月、次の万博は上海ですから、今年中に北京に行って胡錦濤主席に会う。これが皆さんのお仕事にも多くかかわっているかと思いますが、“政冷経熱”政治は冷たく経済は熱いと語った、ゼロックス会長小林陽太郎さんの家に火焰ビンが先日投げられました。やはり日本の国益から見れば、今の中国との関係をより深めて熱くするという、これはオリンピックの8年、10年の万博、今年が2005年ですから、これから5年間、そういう想いがあるんだと思います。それはそれとして、正月に行かなかった小泉さんは、1月5日伊勢神宮に例年のごとく参拝をします。その後名古屋で乗り換えて、京都に入ります。島津製作所です。入って田中さんというノーベル賞を取った方と話をし、レントゲンですが主に、ほとんど実態は解らない。20分ほど話を聞いて、話が解らなかったのか小泉さんは「ところで田中さん、気力って測れるんですか」「気力、やる気」そう聞いたら、田中さんは真面目ですから「気力ですか」とか言いながら悩んでいます。小泉さんはニヤッと笑って「もし気力が測れば、田中さん、もう1つノーベル賞ですね。」こう言われて初めておちよくられた事が解って、田中さんは苦笑する。このシーンを番記者が私に報告に来て「先生、深層心理ですかね。潜在意識ですかね。自分の気力がチョット衰えてきたのか。その事を測ってもらいたい。」昨年12月8日、横田めぐみさんの遺骨が2人プラスアルファと言っておきますが、今日は。別人のDNAであることが発表された。それ以降小泉さんはガクッと、つまり今まで支持率を回復してきたのは、この日朝拉致問題、これが実を言うと裏目に、マイナスに出てきた事を含めて支持率もそこから30%台が出始めてきたということを含めてちょっとトーンダウンしている。これが正月のまず出来事でした。

そして、全く二人の人物、一人は教え子の記者、もう一人はある財界人が、年末に新聞記者が、正月に入ってある財界人が全く別の席で小泉さんと食事をし、話をした。しかし、この二人が全く共通の話を、その後私と食事をするときにはしました。それは「小泉さん、辞めたいのかなあ」と言う台詞なんです。「辞めたいって言ったんですか」と聞いたら、いや、そんなことは全く無いんだ。ただ、話をこうして酒を飲んでいる時に、昔のような迫力がない。構造改革を不退転の決意でという感覚じゃない。やらなければいけないんだけど、というような言い方になっている。気迫が感じられない。これが二人のいわゆる観察力の鋭い人間が辞めたいのかなあ。そして、最後に触れた言葉がひとつ、「花道ができたならこの人は辞めるんじゃないかな、辞め時を、辞め方を探っているんじゃないか」という印象を年末も年始も会った人が私にいう事なんです。

3. 小泉流構造改革

もうひとつの傍証なんです。私は小泉さんと実をいうとかなり親しく付き合ってきた。私の講演をかってこの3、4年以内に聞かれた方はお解りだと思いますが、ちょうど4年前のこの2月の時期に、現在、外務副大臣をしている逢沢一郎というのが、私の松下政経塾時代の最初の教え子です。今、立命館大学の方にも年2回必ず来て外交の話をし、リビアのカダ

ファイとこういうワインを飲んだんですよ、みたいな話を学生達にもしてくれています。彼はまだ当時無役でしたが、慶応大学出身で「先生、先輩の小泉純一郎、慶応大学。あの4年前の総裁選に出るかどうか迷っているの、先生、選挙の専門家ですからアドバイスをして下さい。」赤坂の「つやま」という料理屋があります。そこで小泉さんと私と逢沢一郎と3時間ほど、最初の1時間半位は逢沢一郎もいましたが、途中で彼はお二人でお話したほうがいいでしょうからと席をはずしますと。その時に小泉さんが私に「先生、日本の国を変えたいんですよ。今までのような右肩上がりの時代ではない。これからは族議員だ、利益誘導だ、利益分配だ、田中派、木曜クラブ、金丸、竹下、経政会。そういう時代ではない。“官から民へ、”こういう改革が、つまり構造改革が必要なんです。」熱く彼はコップ酒を握りながら語りました。私はそれはとってもいい発想だからお手伝いしますと話しました。「しかし、小泉さん、日本を変えたいのなら自民党と霞ヶ関を潰すくらいの気持ちがないと変わりませんよ」と話すると、小泉さんはニヤッと笑って「自民党を潰して日本を変える。これを自分のスローガンにします。」勘のいい人ですから、もう私、半分コピー代をもらってもいいかなと思ってますけど。

4. ナルシスト小泉

そういう付き合いをしているときに、2年間ほどお付き合いをしました。総理公邸に入って、夜、学生をダミーに使って、ジャンパーで入って、或いはポトマックという赤坂プリンスの喫茶店でお茶をのみながら、「疲れたよ」と言うから「好きな事をしなさいよ。オペラでもミュージカルでも歌舞伎でも観たいときには何を言われても観たほうがいいですよ。アメリカなんかそうやっているんだから皆」こういう風に言ったら、そうしたら小泉さんはニヤッと笑って「先生、俺は中でも歌舞伎が一番好きだ。特に忠臣蔵、特にその中で何度観ても涙が止まらない、南部坂雪の別れ、あのシーンだ。」大石内蔵助が主君浅野内匠頭の奥様瑤泉院に連判状、血判状をもって討ち入りの挨拶に行きます。もう、討ち入りまで残り一週間の時でした。お茶を出してきた腰元の指が震えるのを見て、吉良家のスパイと見抜いて、瑤泉院の奥様にいつ討ち入りだ、もう年が明けてしまうぞと言われ、いやいや京都一力茶屋で、江戸吉原で女子と唄を歌って、酒を飲んでいほうが面白くて、空とぼけて、「大石お前は巷で昼行灯と言われ、大石でなく小石とも軽石とも言われている」と罵倒されて、最後に連判状、血判状を渡して、後ほどお読みください。出て来て南部坂、私の東京赤坂の事務所の脇なんですが、雪の中土下座をし、必ずや主君の仇を。でも、まあ、二度観ると弁慶の勸進帳と一緒にですから、大体読めるんですが、それでも小泉純一郎という人は涙が流れる。こういうのを心理学的にいうとナルシストといいます。つまり、ぐずぐず権力にしがみつくような、ああいうタイプではありません。あっさり辞めます。ぐずぐず言われてやるタイプじゃない。それがいわゆるチキンゲームです。ジュームス・デイーンの「エデンの東」である絶壁に向かって、若者が二人で車を走らす、最初にブレーキを踏んだほうがチキンハート、「臆病者」、チキンゲームですが。小泉は絶対ブレーキは踏みません。だから、青木幹雄さんは病気になったんです。風邪もあつたけど、風邪のときに久しぶりに酒を飲んで嘔吐して、失禁までされて、明日まで検査入院です。70歳を超えているという問題もありますが、二人の綱引きです。

5. 今後の政局と予測

小泉さんは、財界人に向かって1月、「選挙はできないよね、やったら負けるもんな、民主党に。」それは、皆さんお気づきのように民主党がいいという事ではなく、今の自民党ではもう駄目だという事を皆気づいているから。おそらくその事を小泉さんもわかっているという。じゃあ選挙はできない、結果、玉虫色という問題になってくる。郵政民営化、国民は望んでいません基本的には。そんなことよりも、まず年金の一元化、景気が少し良くなったと竹中が言うなら、踊り場なら、本格的にもう一回上に向かうように、個人消費も垂れました、中国特需の一時の勢いはもうありません。

はっきり言って中国は自分の所で作り始めました。デジタル家電でも完全に韓国のサムスンに全部やられている。これはお分かりだと思います。こういうような事態です。こうなってきた三四半期マイナス、ゼロ成長以下ですから、二四半期ゼロならマイナスならそれで景気は下降です。

まだやるべきことは他にいっぱいあるはずですが。この大阪の寝屋川を含めた一連の子供達の安全の問題もそうだと思います。その事を含めて、何でこんな郵政の問題で解散なんか、命をかける事なのか。まして、ライブ・ドアとフジテレビのマネーゲームをみたら全部ハゲタカファンドにやられる。リーマン・ブラザーズの関係者がいないと思って言いますが。別名ピーマン・ブラザーズといって中身がないっていう分けの解らない、ピーマンを売っている人がいたらお許しをいただきたいと思いますが。その事を含めて、このチキンゲームをできレースにしようとしている。小泉さん、特定郵便局長はみなし公務員とする、大樹会という強力な自民党の支援団体です。私は福井県ですが、福井の親父の実家は特定郵便局ですから、これは世襲できます。福岡という家が代々これを世襲していますが、過疎地域における特定郵便局は過疎を配慮し優遇する。何のための民営化なんですか。なんでダイエーが選択と集中であれだけの店をカットしなければいけないのか。民営化というのは効率化であり生産性を上げる、不採算店は切るしかない、こんな事は経済学の1ページ目の問題なんです。もうすでに郵政民営化の法案の中に入り始めました。与謝野馨、非常に優れた人です。私も付き合いがありますが。この与謝野馨さんが連日のごとく小泉さんの意見を聞き、今竹中さんが出ていないのは完全に竹中を押さえ込んで、青木幹雄（森喜朗）、昨日安部晋三さんの後ろの方に森先輩がおられまし



たが、もう時間もないので頭だけ下げて私は逃げましたが、この綱引きが、今チキンゲームという名のもとにできレースになって、6月に衆議院を通過させる。夏はチョット延長国会が、東京が都議選があつて出来ない、秋に仕切り直しをして8月の下旬、9月の中旬、60日の臨時国会を開いて参議院を通過させる。参議院は青木幹雄さんの息のかかった人ばかりですから、全て彼の手の中に入る。「小泉、ここで辞めろよ。政権と引渡しに郵政民営化を通すか

ら。」そこでおそらく綿貫民輔先生が出てきて、両方握手して、郵政民営化、形だけですが法案は成立した。公明党神崎武法もその方向で動き始めたのではないか。内閣支持率も30%台に落ちたのがもう4回になりました。これがあと北朝鮮で浮上する可能性は、キムジョンイルが民主化を認めるという事でなければ、まあ、しばらくはないでしょう。どう考えても。この事を含めて、どうも、表向き、花道論、ただ、小泉さんという人の性格ですが、一晩寝ると翌日全く違うことを言います。昨日あれだけ一時間しゃべってこういうふうにと言ったのに翌日「先生、あれは、こういうことだからこういうふうにする。」そのいろんなアドバイスもですから。ですから、もし、新聞、テレビが郵政民営化で小泉総理全面撤退、玉虫色どころではない、これもまた道路公団民営化、三位一体の改革と同じように玉虫色の決着である、国民はアホじゃないから支持率が下がる。そう思った瞬間に数パーセントだけ、私は6月の末、サドンレスの解散総選挙というのは嫌でしょうけど残っている。それは破れかぶれ解散ということはあります。私は小泉さんとの約束は、最後はやっぱり自民党を飛び出て、そして解散をして、そして小泉新党を作り自民党の良識ある部分、民主党だって良識ある部分がいっぱいいるんだから、そこでもって選挙をやれば自民党も民主党も潰れて、新しい政権ができて、それが本当にガラガラポン。日本の国にとってはいいんじゃないかというのが二人の約束事ですから、4年前の。だからそれを何とか、と思ってましたが、だんだんと妥協し妥協し、今おそらく一番苦しんでいる、そういう時期だと思います。

郵政の民営化だって絶対やらなければいけない事ですが、今やれば確実にハゲタカファンドにやられます。それはもうリップルウッドの新生銀行は10億円ですから、それで1千数百億ですから利益は、単なる瑕疵担保条項。今度のリーマン・ブラザーズとライブ・ドアの話だって、私は専門家の友達に聞いたら絶対損をしないのはリーマン・ピーマン・ブラザーズだろう。だって、株が下がっても困らないんですから、あそこは。いずれにころんでも、リーマンは。リーマンを信じたライブ・ドアの堀江が、結局は最後どうなるのか。昨日のフジテレビの決定は、時間稼ぎですから、あんなもの商法上の違反ですから、絶対、株を倍額も新規に契約、発行なんかできません、維持のために。だけど本当は半年かかりますから、その間に政府は、法律を全部ガチガチにしますから、その事を彼は政治的に解るかどうかですけど、おそらく相当の苦しい局面、それが全体的にハゲタカファンドのいろんな動き、郵政もおそらくそんなことになるだろうと思います。

6. ポスト小泉について

問題は小泉さんの気持ちの中に中2階を飛ばして安部晋三に一気に持っていきたいという気持ちがなんとなくある。そして毎日新聞の先日のデータでポスト小泉は安部晋三22%、小泉純一郎15%、ついに小泉さんの上に来る「旗」が決まりました。青木幹雄さんのオフレコのメモを読んでいると、小泉がもう少し我慢してくれれば、この法案はまとまるが、小泉をどこまで信じていいのかわ、それが自分としても苦しい。つまり青木さんですら、あの野中さんを半分倒す位の力を持っている青木さんでも、小泉の本心が何処にあるか読みきれない。だから我慢してくれ。ですから、ずうっと今じっとして結局チョット体調を壊すことになる。古賀誠さん、私、今年になって既に4回博多に講演行きました。6回名古屋に行きました。お分かりだろうと思いますが、景気の良いところは講演が多いんです。昨年207回講演をやりました。大学それ以外、ボランティアでもやっていますが。明らかに景気のいいところは、もう名古屋

は週一回といってもいいくらい講演が実を言うと言います。博多に行く飛行機で古賀誠さんに会いました。もちろん飛行機の中でしゃべるような人ではありませんから、私は一礼だけして。降りて、古賀さんは、ゆっくり歩かれていたので、私は少し早足で追いかけて「今年もよろしくお願いします。」「いや、先生、今年もよろしく」挨拶が終わったあと、古賀さんが私に歩きながら「先生、旗が決まれば一瞬にして政局が変わります。」ニヤッと笑って「また。」彼は迎えにきた全日空なんかの人に、大体運輸族はそういう人が迎えにきますから、消えました。古賀さんが一年半前の総裁選の時、野中さんが毒饅頭で村岡さんと刺し違えて、国会議員を辞めるとき、古賀さんと飲んでいたら、古賀誠は「先生、野中さんは間違っている。敵は村岡じゃなくて、小泉であり青木だろう。何でこんな時に毒饅頭で村岡と刺し合って議員バッチを外さざるをえないのか。」そういいながら「だけど、先生、俺は幹事長にしてもらったのが野中先生だから。それが間違えているとしたって、俺の気持ちはどこまでもついていきます下駄の雪でしかないんだ。」こういいながらぐっと酒を飲む。私はそういうのが嫌いじゃないですから。その言葉を彼は私に言っているから、おそらく旗が決まれば、決まりかかっているのかなあ、勝負かなあということをメッセージとして私に言ったのか。ちょうどその一年半前「先生、旗がなければ戦えないんですよ。小泉に戦って藤井隆男だとか、笹川堯とか、亀井静香だとか、とてもそれは戦にならないですから。」旗っていう事を、彼はこの一年半考えてきた。その旗がだんだんと決まりかかってくるからそういうことを言っているのかなあという印象です。

問題は、中2階を飛ばして、もし安部晋三に持っていくのならという、ここの部分、このいわゆる世代交代論が本当にあるとして、今日の後でおそらく夕刻以降のニュースになっていますが、安部晋三が「北」に密使を送ったなんていう事は、どうみても安部晋三を知っていればありえないでしょう。だって、そりやもう、イケイケどんどんの人ですから。というような事を含めて、いわゆる謀略戦に自民党の中がなった。その、例証を一つだけ言います。町村信孝外務大臣、いわゆるDNA鑑定が違ふと判って最初に口を開いて北朝鮮への制裁を強く言ったのは、町村信孝、同時に勿論安部晋三です。お分かりのように。それはそれとしてタカ派は言うでしょう。しかし、町村さんはここに来てパツパツ止まりました。何も言いません。外務大臣としての遠慮ではないんです。どうも今月のある段階で、福田康夫前官房長官とあった。外務省はタカ派とハト派に分かれています。福田康夫さんの時、田中均とXと話をしたいいわゆるハト派のグループが全てを決めました。今回の2度目は基本的に在日の北の方々と実を言うと飯島秘書官を含めて何人かが昨年の5月はやりました。しかしその後こういう状態になって新外務省事務次官谷内、タカ派のリーダーです。田中さんと同期です。田中は一応待ちポストに入りました。でも同期で次官というのは通常ありません。次官にとどまっているというのはまだ福田康夫の力が残っている。町村さんはタカ派ですから。福田さんにすり寄ってきた。つまり、このまま安部晋三にいったら、昭和29年ですから、昭和19年の町村を含め戦前の人間は全部飛んじゃう。いくらなんだって自民党はそこに有力な人間はいます。昭和15年の古賀誠や麻生太郎を含めて、福田康夫は昭和11年ですから、森喜朗、小淵恵三は昭和12年、河野洋平も、加藤紘一は14年、平沼赳夫13年です。小泉、小沢一郎は昭和17年。おそらく郵政という問題と世代交代の問題が小泉さんは巧みにひっかけながら政局を運営していこうという、うまくいけばうまいいきますが、裏目に出たら本当に自民党の中はぐちゃぐちゃになってしまう、そういうギャンブルをおそらくしている。外交も小泉さんのやり方はみて御分かりのようにギャンブル

ルだと思います。中曽根康弘先生のいうように外交のギャンブルは駄目です。いい時はいいですけどもいい事は続かない。それが北朝鮮問題もおそらく中国の問題も後で触れますが、というようなことになってくる。これが今の永田町的状况であろうと思います。

7. 民主党の実情

で、もう一点、つまり民主党なんですが。昨年の末慶応大学OBの財界人と東京の戸塚カントリーというゴルフ場ですれ違いました。終わったらクラブハウスで飲もうと言われてそこに参加しました。私は記者と行っていました。その時に、二人の慶応OBの財界人は、「俺達慶応のOBからして小泉では日本の国を変える事はできない、鋭い感性でなかなかと思ってきたが、実務ができない、ボールも丸投げ、全てこれしかない。もう一回日本の国を変えるという事は剛腕の小沢一郎しかないできないと思う。先生、小沢と飯を食ってくれないか。」私と小沢一郎さんは家が百米しか実は離れていなくて、子供同士が同級生で、私たちの子供は深沢小学校という東京の世田谷の小学校にいました。ただ、私はこういう性格ですから、嫌なときには嫌とはっきり言いますから、あんまり強引な人は大嫌いなもので、西武何とかの堤何とかとか、某ジアイヤーツ系のナベツネとかあまり好きじゃなくて。そういうタイプですから言うのです。一時疎遠になってました。「先生そんなこと言わないで。」会いました。去年の暮れ、何でクリスマスの日に会わなくてはならないのかと思いながら会いました。その財界の人は、一時間半ほどしたら自分達は出て行くから、バーで飲んでいるからチョットあなた達話して、そこで小沢さんと二人きりで話した事を2点言います。一つは、「先生、最大の構造改革は政権交代です。私はむしろ挙国一致日本再生連合政権を作るべきだと思っています。つまり、自民党と民主党の良識の部分で3年間もう選挙しないで、嫌でしょうけど消費税、食品以外みんな15%にする。高いのは駄目ですけど。30万のワインとかそういうのは駄目ですけど。」そういうことを言ってきたことが、小沢さんはその事を知っていて「先生、自民党が主力になっちゃ駄目なんです。もう一回政権交代する事が、日本の最大の構造改革であり、緊張感の出る政治ができてくる。霞ヶ関だってもう一回政権交代が起きれば、優秀な人間は今でも民主党に來ていますが、おそらくもっと來ますから。それの方が日本の国が良くなる。」これが一点、

もう一つは昨日の党首討論を見て判るように、岡田克也という人は非常に真面目なガリ勉タイプですね。予習もして、復習もしてキチントやってそつなくやるけれど何の決め手も持たない。方や天衣無縫のデタラメな小泉総理大臣、その瞬間のやりとりでごまかす事の天才ですから、結局、お互いに一本もとれないまま、何もしないで終わっちゃう。見てたら明らかにやっぱりそりゃ小泉さんの方が上だ。そこでもう一つ攻め手を。これがいわゆる東大出身の通産官僚の限界、霞ヶ関の。右肩上がりの時代にはそういう人でもすんだけど、これから人口減少時代になっていって、いわゆるマニュアルのない時代になったらそういうタイプはおそらく無理です。私は昨日の岡田克也を見ながら、今日はイオンの関係者がいないと思って言いますが、加藤紘一さんに良く似てるなと思いました。あの加藤の乱の時の加藤紘一です。つまり、頭もいいし、いいと思うけど、やっぱり勇気が無い。つまり、一度も受験で失敗していないでしょ、おそらく。東大に行って霞ヶ関に入っているんですから。ところが私達のように、私は高校受験で三流高校に行って、大学も行きたい所は落ちて某私立大学ですし、大学院ももうなんかヨレヨレになって早稲田から放り出される人間ですから、挫折の中でやっぱり何かをつかもうとしてきている。ところが失敗したことが無い人間の弱さは、負け戦を戦えない。あの加藤

の乱の時に加藤さんと最後に会ったのが私ですから、固く手を握った瞬間の握手が弱かったんで、嫌だなと思ったら2時間後、欠席ですから、あそこで突っ込んでいけばまちがいなく加藤さんは天下を取ったと思う。今は違いますよ。山形の知事選で血を吐きながら、彼は逆転勝ちしましたから、その後私に電話してきて「先生、戦いってやっぱり奪い取るもんだね。」「遅いよ」と言おうと思ったけど、言いませんでした。先輩筋ですから。岡田克也もきっとそうなんです。ここでみっともなく敗れたくないと思っている。ですから民主党に行っている松下政経塾の教え子達21人いますけど「先生、戦う気があるんですか、うちのトップは」「お前達聞いて来いよ、俺は関係ない、民主党じゃないんだから」その部分がおそらくある。それを小沢さんは見抜いている。岡田では力不足だ。しかし、岡田に変わる人物は今の民主党にはいない。これもはっきり言っている。それは菅でもない、鳩山でもない、勿論横路でもない。若い松下政経塾の連中ではまだ残念ながらトップの器ではない。だから、先生、もう一人欲しいんだと私に言うんです。どういう人。ワイドショーとかスポーツ新聞にさりげなく載れるような、田中康夫のような、いわゆるああいうのが欲しい。だけど田中康夫は長野県知事を辞めないから無理なんだ。で、私は瀬戸内寂聴先生が30歳若かったらいいですね、と言いましたら。小沢一郎は深く頷いて、そうなんだ、とにかく大阪のおばちゃんという怒られますが、50前後のおばちゃんにもてる、絶対に信頼のある、つまり、安部晋三が出てきて野田聖子と一緒に組んだら、岡田克也では難しい。で、私はある50台の女性の名前を言いました。是非、会いたい。私は、新年になって連絡をしました。すると、マネージャーから電話があつて「うちの何とかは、政治は大嫌いですし、まして自民党は嫌いです。」「いや、小沢さんは自民党ではなく民主党なんですけど」と言っても、もう全然駄目ですが、小沢さんは俺は諦めない。絶対どっかで飯を食うとかわけのわからないことを言っていますが。ストーカーは駄目ですよとは言っておきましたけど。そういう気持ちを持っていて、小沢一郎は自分で中心になって政治をやる気持ちはありません。「先生、俺は昭和17年で今年63歳、むしろ岡田でも誰でもたてて、政権交代に命をかけたいと思っている。」そういう言い方を実を言うとなりました。そのへんがおそらく京都の京セラの稲盛さんを含めて、経済界の方々がバックアップを、今している部分だろうと思っていますが、その事を含めて民主党もバラバラであるかなという印象は私も強く持っています。

8. 二つの外交問題

(1) 北朝鮮問題について

このような国内情勢にかかわる二つの外国の問題、つまり北朝鮮問題ともう一つは中国の問題であります。北朝鮮問題については、ジェンキンスさんについてだけちょっと述べます。皆さんがお気づきのように、拉致問題はジェンキンスさんが戻ってきてから、パタットと止まりました。時系列的にみますが、5月22日に小泉さんは二度目のピョンヤンに行きます。その前々日総理官邸で昼食会があつて、安部晋三は小泉さんに、地村・蓮池・曾我三家族の子供、ご主人、8人全員ならこの訪朝は成功ですが、ジェンキンスさんは難しい。国家反逆罪を二つも三つも犯している。脱走、それから脱走示唆、誘導、反米活動、など。なかなかジェンキンスさんだつてアメリカの事を考えれば、日本には来れないと思う。しかしその時、総理、8人でなく、7人、あるいは曾我家を除く5人という風になったら、交渉を打ち切らないとジェンキンスさんが、取引の材料になって横田めぐみ他の安否情報は極めて厳しくなるであろう、と

進言をします。それは当たっていると思います。そのことをもちろん聞いているが、小泉さん、「はい」・「はい」5月22日政府専用機でピョンヤンに着いて、9時。11時から午前中の会議に1時間半、午後の会議も90分、11時からの会議は12時半に終わりますが、その直前の12時18分過ぎキムジョンイルは、私が何度言っても、地村・蓮池の子供は今あなたと一緒に戻るが、「ジェンキンスさんとお嬢さんたち曾我さんのご一家は戻らない。」だが、「小泉さんあなたは日本の総理大臣であり、ブッシュアメリカ大統領の友人だと聞いている。あなたが自ら説得されれば、ジェンキンスさんも納得されるかもしれませんが、」と前触れをして、隣の部屋に曾我さんのご主人（ジェンキンスさん）、娘さんがおります。食事の後、会ったんです。ご案内のように、外交文書の中にもありますが、1時間だけ。ところが、ジェンキンスさんが香港の雑誌に答えているのですが、15分で話は終わりでした。この前日5月21日、北朝鮮外務省幹部がきて、「ジェンキンスさん、キムジョンイル將軍様はあなたの事を大切に思っています。恩を忘れないように、」この言葉で全てわかります。部屋は盗聴されております。もし日本に戻りたい、妻のひとみに会いたいといっても盗聴されて、自分は空港に行くまでの間に殺されていただろう、という証言があります。問題は残り45分、この情報源は言えませんが、あの直後、私にある政府周辺者といっておきましょうか、全て残り45分で何の話があったのか、それは歴史の中で、おそらく表には出てこない。そこの部分が全てなんだ。しかしある程度ブラックボックスは読めます。ジェンキンスさんは参院選の直前に戻りました。中国、シンガポール経由ではないが、インドネシア経由で戻りました。そこで相当の借りをバーターの取引を、米の25万トン、残り25万トンはまだ出しておりません。いろいろあったらと思うます。

で、問題、ジェンキンスさん戻ってきて、座間のキャンプで二ヶ月米軍の事情聴取を受けます。CIAからも受けます。一部皆さんの耳に入っていると思いますが、相当多くの事をジェンキンスさんは米軍にしゃべっています。拉致家族がどうして帰ってきたかということも、言っております。でも本当かどうかわかりません。しかし、アメリカは態度を硬化いたしました。8月のお盆明け、ライス補佐官が日本に来了。朝鮮半島問題、北朝鮮問題は、拉致問題は小さい、あくまでも核の問題である。いまの6カ国協議、かなり米軍・アメリカは立腹した。つまり取引があったんじゃないかと、読んだ。そして8月下旬共和党の党大会でブッシュは演説をした。あのニューヨークで、このときにイラクの戦争で協力してくれた国、4つの名前を言った。ご案内のとおりイギリスとオーストラリアとイタリアの名前があったが、日本の名前はないんです。だってイギリスの次に軍隊を出しているんですから。自衛隊を、ええっと、思ったのです。それから急に拉致問題はトーンダウン。で、横田めぐみさんの情報もこう



なった。藪中さんが念書を書いてきた。公表しないと、しかしその直後、先週でしたか周辺の居住者が私に「先生、念書は一枚じゃあないんだ、」そうになったら小泉さんは「北」に対して強い態度で行動は出来ない。昨日の発言を聞かれた方、北朝鮮に自分は助け舟を出した。それでいいんだと思いますが、しかしそれだけでは外交は難しい。それは東大出や京大出のエリートたちが、いわゆる外交交渉の秘密の場所で念書を書けと書いて、書くバカがいるんです。それでなかったらコンテナ2台分渡さないと書いたって、その時は黙って帰ってくるしかないでしょう。念書なんて書いたら、バラされることなど分かっていることです。その辺がなんとも言えないこの一連の出来事だと思います。

その辺が実を言うと、安部晋三を介しての世代交代の波に入ってきている。6カ国協議は、皆さんがお気づきのように、食糧の30%とエネルギーの40%は中国が北朝鮮に送っていて、いま保っています。日本はお金の送金等で大体15%ぐらいの貢献はありました。これは今段々と小さくなっています。ただ食糧とエネルギーの40%ということを考えたら、中国を無視して北朝鮮は動くことは出来ません。この中国が皆さんが若いときに中国の石炭は露天掘りといって、上からどんどん掘るということを学んだと思いますが、昨年一年間で、中国の炭鉱夫は6,000人死にました。露天掘りの炭鉱は全部掘ってしまった。石油も輸入国ですからね。今は。ですから原油が1バーレル51ドルに昨日なった。アメリカの株が下がった理由はそこです。先々週石油の会社に講演に行きましたが、先生もう40ドルは切らないです、1リッター百十何円ですから、アメリカはとにかく原油を買い込んで、テキサスのなんか岩塩の湖に投げ込んで、溜めているんだそうです。油田も掘らないんだそうです。最後には自分のところの油田を掘るんですが、そういう戦争をしているらしい。

そして、ついに中国はイランと石油の契約をしました。フランスのシラク大統領がブッシュと話し合いをして、いろいろとやっていますが、中国へ武器を売るということは、これは続けると言いました。（原発の技術供与もします）中国はもう石油、石炭では間に合わない。行かれた方はお分かりのように、50キロおきに火力発電所を作っている。それでも間に合いません。上海で停電にあった人はいると思います。北京でも。中部電力の社長が先輩で、中部電力一社の電氣量を中国は一年で火力発電所をつくるから、これは、どうみても難しいです。その背景があるということをちょっとテイクノートしていただいて。

(2) 中国問題について

もう一点の中国ですが、二点だけ中国との付き合い方。私は月に一回、大蔵官僚二人、日銀が一人、メガバンクの専務、JFE鉄の会社の関係者、同級生に1人証券会社の会長がいて、8人で勉強会をしています。昨年三月、この勉強会でメガバンクの専務がデフレもインフレも中国から始まるというレポートを出しました。なかなか興味深い。失われた90年代、あの90年代のいわゆる日本のデフレ、価格破壊、土地の崩壊はあります。バブルの崩壊。しかし、ユニクロや100円ショップに代表され、皆さんも恐らく缶詰などは中国で作られた方が安い。塩辛だって今中国で作ったほうが人件費が安い。ユニクロの柳井正氏が大学の三期後輩になりますが、4,000人の工場を20中国に持っています。一人大体8,000円から10,000円位の給料で、日本の一番素晴らしいミシンを持って行って、向こうで作ります。中国製品を作る。100円ショップ ダイソーは友人が社長ですが、去年3,000億の売上を達成しました。うち2,600億円は中国製品だそうです。今日していますこのネクタイ300円です。ダイソーのネクタイですが、こ

うやって着ていけばわからないと締めているんですが、全部中国製品です。メイドイン中国、この2年間のインフレは中国特需です。中国の人はブルトーカーを10台現金で買っていきそうですから。ビックカメラとかに行くと、中国の人がこの位の札束をもって、デジタルカメラを100個とか、わけのわからない買い方をしています。中国のこの勢いがどうなるか、これは非常に大きいです。

これは皆さんが一番痛切に感じる。中国との付き合い方、そこで問題になるのが靖国なのです。二点言います。

一つは靖国神社にA級戦犯が合祀されて以来、昭和天皇は一度も行っていません。ところが分祀をするという話が出た。神道上「分祀」は出来ない。靖国神社というのは、秋の例大祭の前の日に戦争で亡くなった英霊に、名前を書く。それをこうやってお祓いをして、奉納するのです。ですから名簿だけなのです、骨はありません。お分かりのように、軍人関係のご息がればわかります。ですから分祀するということは、奉納帳から名前を消すか、破るか。だけど、A級戦犯17名ですか、病院で亡くなった方もいますから、それは消すしかないでしょう。改めて全部書き直すか。まして神道の人にはわかるように、一度祭った霊はそこにずうっといるんですから。こんなの分祀したって、一度祭ったんですから。こういう考え方だから、中曽根さんや山崎拓さんのような分祀論は技術的には可能でも、現実的に靖国も神道関係者はそれは出来ないのです。ここの部分なのです。このことがまず一番大事なので、そうしたらどうするのかという問題が出てくる。

もう一点は、昭和天皇が行かなかったというこの部分、非常に大きいと思います。で、私は、正月に発売された文芸春秋の二月号月刊「1945年・昭和20年特集」正月、本を何十冊か買って読む中の一冊として読みました。この本を読みながら、私は昭和天皇の終戦は、昭和20年8月15日ではなくて、6月15日なのかなと思いました。

ちょっと時系列的に話をしますが、昭和20年の3月10日の大空襲が東京でありました。私はまだこの時、母親のおなかの中ですが、神田で焼け出されました。それから一生懸命頑張って葛飾柴又まで行って、そこで昭和20年9月に生まれました。5月の末、今度は山の手を含めた宮城、いまの皇居がやられます。6月の14日、昭和天皇はお母さまである皇太后（貞明皇太后）に対し、「もう東京も宮城も危ないので、軽井沢の御用邸に移っていただきたい」こう進言しています。しかしこのお母さまは偉い。「私はあなたと共に宮城に居ます、国民とともに宮城にいます」これでショックを受けたのでしょう。昭和天皇は6月15日一切の公務を止めた。公務なんて当時ありませんが、一日中自分の好きな庭にジョーロで水をやっているのです。水といっても少ししか出ません、30秒で水なんか無くなってしまいますが、昭和天皇が5分もこうやっている姿を何人もの女官や内大臣木戸幸一がそれを見ている。おそらく天皇はどうしたらいいのか考えていたのでしょう。これが私の6月15日説です。そして最後に6月16日、内大臣木戸幸一を呼んで御前会議を開く。終戦を決意する。鈴木貫太郎という当時の首相は、昭和天皇と小学校時代から遊び友達だった人ですから、御前会議では天皇はしゃべらないのが普通ですから、最後に6月22日の御前会議で、鈴木貫太郎は「陛下、お言葉を」とふっています。で、昭和天皇は、「終戦を決意し、平和を望む」ですから私はそういう風に思います。

あと、もちろん、ポツダム宣言を受諾するまで、軍部の抵抗がありました。長崎・広島に原爆が落ちて、初めて軍部も抵抗を止めた。8月14日の夜、玉音放送をします。8月15日昼12時

放送が流れた後、陛下は静かに軍服を脱がれたそうです。

そのことの中で、歴史学者の友人は、私に「乃木希典は靖国神社にはいないんですよ。先生」「ええっ」と聞き返したら、戦争で死んだ人しか靖国には入れない。乃木希典は連戦連勝の軍神ですから。日清・日露の立役者ですから。ですから学習院の学院長の時に、明治天皇が崩御して、殉死でしょ。奥様と一緒に割腹自殺をしている。戦争で死んでいない乃木将軍ですから靖国には入っていない。おじいちゃんの明治天皇に殉じた乃木が入っていないのに、何でA級戦犯が入っているのだ。という気持ちがある。わかりませんが。昭和天皇のお気持ちの中にある、だから一度も行かない。

そうやって、考えてみて乃木神社の資料館をみれば、明らかに、朝鮮半島や中国の人は怒ります。なんだかんだといっても、そういうデータがあります。皆さんがソウルに行って、日本のあのひどいことをした刑務所の資料館とか、独立記念ホールにいけば、そこまでやらなくてもいいのにな、と思うけれども同じようなものがある。

だから、世界の大統領や王様、女王様が来たとき、アーリントンの墓地のように誰もが何にも言わずに黙って行けるようなところがあればいいのにと思います。



中国のことについてみると、言われて引いたらダメですから。だって中華人民共和国ですから、中国は世界の真ん中の華なのですから、どこかに たった一つの花 というのがありましたが、それはそういう国だから、言われて押された場合は皆さんも、商売して分るかと思いますが。私の友人が上海である会社の社長ですが、6,000人、朝6時から3時まで3,000人、3時15分から夜の11時まで3,000人、朝6時に遅刻しないのか、と聞いたら、「福岡、お前馬鹿か、6時10分前まで座っていたら、8時から朝ご飯がみんな食べられる、だから、昼も食えるだから、二食食えるんだから、いろんなところから来ている子供達はこれを食べて、給料は貯金して実家に送るんだから、日本のようなアホダラの大学生とは違う」、と怒られましたけれども、それが実態です。しかしこの友人が私にいいますのは、「中国人が一番嫌いなのは香港の人じゃないか、その次、台湾の人かもしれないよ、その次はアメリカとソビエトで、日本人のことそんなに嫌いではないでしょう」。少なくとも沿岸特区にいる3億人、13億人のうち、且つ中国の富の95%ですから、この人達は日本人と付き合ったらいろんな技術を教えてくれる、いろんな利益をもたらしてくれる。これはもうハッピーだ、みんなそう思ってますよ。「一台車を買ったら彼等はその次、何を買いたいと思うか。福岡分かるか」、「いや分からない」、「次はベンツなんだよ。日本の車を買ったら次はベンツなんだよ。北京から上海まで800キロぐらいですか、そこをベンツで走りたいんだよ」わからないですが、時速150キロ出したってベンツは全然揺れないらしい、乗ったことはありますが、170キロで乗ったこともありますけれども、そういうことです。そのところもぜひお考えをいただいて、私は、日本と中国の関係は“政冷経熱”であるということは、国益に反する。

榊原英資、ミスター円 彼とこの間、シンポジウムでの講演がずれて一緒になり、残りを後ろの方でちょっと聞いていた。あのアメリカとべたべたの榊原英資が、「もう日米は50です

よ、残り50はアジアです、その50のうち30は中国です、そして残りの20のうち、半分の10はインドだと思います。あとは韓国、台湾、その他のアジアである、こういうスタンスでいかなければ、これからの日本の2008年、10年、オリンピック、万博をこめてそういう表現をしています。この辺はちょっとお考えいただく、この中国・靖国どういう風に私達がやっていくかの問題であります。

9. ポスト小泉の今後の展開

ポスト小泉、今後の展開についてちょっと触れます。私は「郵政花道論」ならば、恐らく麻生太郎総務大臣かな。小泉さんは何人かの人に、自分の後を囁いていると思います。一人は麻生太郎、もう一人は谷垣禎一、そしてもう一人は安部晋三だと思います。麻生太郎さんの説は去年の夏のある日に参院選を終わって、慰労会があった。東京の赤坂プリンスの脇に弁慶橋があつて、一心坊というフカヒレ姿煮大きくて一人1万円位する所ですが、そこで6人ほどで食事をした。終わって麻生さんがせっかちだから、直ぐに上着を取りに自分で上着を着た。小泉さんがぼとぼと遅れてきて、ちょうど目の前に小泉さんの上着があつて、小泉さんがYシャツで来たんで、あの吉田茂の孫の麻生コンツェルンの御曹司、学習院大学、気位の高い麻生さんが、小泉さんの背広を取って小泉さんに着せたという話がある、渡しただけかもしれませんが。みんな酔っているからよくわからない。普通、私が学生に渡されても着せてもらうということはないでしょう、まず、堤義明ではないですから、それはないと思います。ここの問題なんです、そういうことが出て来た。ええーと思って私の親友が麻生太郎の親友ですから、いつも神楽坂で夜の9時ごろから飲むんで、なんか話をしようと、二度も三度も電話しても、先生いま郵政で忙しいと言う返事で会ってくれない。私がこんなに無口なのに会わないというところに、何かあるんじゃないか。

そしたら1月に松下政経塾の民主党の代議士が麻生さんと中国に行った。ある飯店で食事したら、麻生さんが「ITでもって日本を変える」ということを食事しながら滔々と30分演説した。「あれは先生、施政方針演説だね。」という感じのことをいう。麻生さんという人は、関係者の方ならわかるけれども、あの人は性格的に郵政民営化なんてどうでもいいでしょう、はっきりいえば、今そんなことやったら大変だと思っています。なのに、総務大臣をやっている。私が「総務大臣 嫌でしょう、本当は経済関係の大臣やりたいんでしょう。」とふると、「いやいや先生、この仕事結構大事ですよ。」いま、口を曲げてやっているでしょう、私は本心ではないと思う。

だけでも郵政民営化花道論ならば、平成19年からスタートですから基本的に、これは当然のことながら、この任に当たってきた麻生君に後を頼みたい。で、花道。麻生太郎ならば当然、古賀誠は獅子の会の仲間、昭和15年生まれ、青木幹雄も森喜朗もOKです。

もう一つの傍証、与謝野馨、麻生さんの相愛会というのが、こちらでもあると思いますが、私は東京や福岡や札幌に講師で行きます。行くと必ず麻生さんは、「先生、俺がまず15分しゃべる、そして必ず与謝野馨がきている、与謝野も15分しゃべる、その後、先生40分しゃべって下さい」、その後はパーティですから、シンポジウムやろうといっても麻生さんは与謝野も呼ぶよ、この二人の仲は、知っている人はわかりますが、非常に深いです。そこで、私の仮説、去年の9月の内閣改造で、おそらく政調会長の額賀は留任だったと思います。そして総務会長は古賀誠さんだったと思います。但し、幹事長は安部晋三だったと思います。安部さんが受けな

かった。武部になってしまった、それではやはり力のある人間を入れなければいけない、麻生さんが恐らく進言をし、与謝野なら玉虫色で何でもできる、力があるから。竹下さんが惚れ込んだ人です、中曽根康弘の秘書でした。与謝野晶子、鉄幹の孫ですけれども、優秀な人です。そこで古賀も切られた。それで中馬さんという人が総務会長で、ここで全部話しが変わった。ですから与謝野馨が幹事長に、麻生太郎を総理大臣にして、そして後ろで青木、森さんが糸を引くというような図式で花道論を作っているのかなあというのが表であります。

ですが、小泉さんの本音は谷垣さんだと思っていたが、人が良すぎる。彼は非常に優秀だと思いますが、戦時でなく平時のリーダーだと思う。何もない時ならあの人でよいと思います。こうなってきたら、やはり安部晋三まで一気にもってゆく、それが小泉さんの裏本命なのかなあという風に思います。

表本命はおそらく小泉さんも青木さんも麻生でいいと思うんです。つぶれた時、青木さんたちは福田康夫のワンポイントリリース。福田さんが1月の下旬森さんあるいは青木さんにその時がくれば覚悟を決めていますから。という主旨のことを語ったとか、語らなかったとか、という話が永田町に流れました。つまり、自分はやりたくないけれども言われればやります。

正月に博多に行って古賀さんに会った話を致しましたが、そのあとホテルオークラ博多というところに泊まりますのでチェックインしました。夕方の5時過ぎでした、うしろから「オイ福岡君」ふっと振り向いたら山崎拓先生、選挙の応援なんて嫌だな、困るなあと思っていたら、「ちょっとお茶飲もう」、「ええちょっと」と言うと、「20分でいいから」、その話の中で選挙手伝えというような話はもちろんあったのですが、俺と福田康夫は大学同期の昭和11年で二人とも森たちと違って早稲田雄弁会ではないんだ。つまり早稲田大学で真面目に試験を受けてきた。つまり山崎拓は福岡の修猷館という名門、福田康夫は麻布高校ですから、政経と法学部ですから、二人とも民間企業のブリジストンと石油関連企業に入り、昭和11年、いい年齢でしょう。自由民主党、困った時はボールを上にあげる、年配者に上げる、この福田康夫、福田さんが年金で辞めたのではないことは皆さんもご存じだと思います。

もう小泉のいい加減さにほとんど嫌気がさしたんでしょう。小泉さんが選挙に落ちて、二年間、福田赳夫の下足番というか書生になりました。この時、長男である福田康夫は（次男坊が福田赳夫の秘書をしていましたが、亡くなった）、毎朝、ある石油会社の課長か部長ですから出かける。康夫さんいってらっしゃい、純ちゃん有難う、行ってくるよ。これが主客転倒して首相と官房長官、外交でギャンブルを始める。そんな簡単なことじゃあない。年金もあつたけれども、そのことで一旦身を引いて、青木さんや森さんは、次を備えよ、次はもう子供が出ますから、この任期中しかやらない。昭和11年なら誰も文句言わない、堀内光雄さんもおそらく言わんでしょう、ということです。

それが、裏本命は青木、森はこっちにあるということです。その辺がかみ合って、冒頭に触れた安部晋三の力がますます高まってきている。安部晋三の会「ハートの会」50人います。おそらく橋本平成研が崩れましたので、ここのグループからも、15人から20人ぐらいきます、70人になります。おそらく最大派閥ですよ。私は安部晋三だからハートの会もいいけれども、「あべ」と「しん」だから、「安心の会」がいいじゃあないかと一応言いました。

彼に一つトラウマがあるのかなあ、という気がしました。それは父晋太郎の悲劇であります。あの時、竹下さんの前に安部さんがやっていたら、安部さんは政権を半年か一年は出来ました。命は早めたと思いますが。最後に本当に病院で倒れて、私はいろんな薬あるよ、そんな

ことをてんぷら屋で二人で話したことがあります。お父さんの安部晋太郎さんと食事をして、最後はお吸い物とかお豆腐とか、あれだけ酒の好きな人がウーロン茶の温かいものしか飲まない、それでも出てきているんな話をしたい、そんなことがありました。おそらく病院に入った段階で、奥様（岸信介の娘）が安部晋三にいろんな話をした。その中で感じたことは分かりませんが、権力は取れるときに取ったほうがいい。

だからいま、あんまり焦らないで、幹事長だけで総理をやっても大変だと思う。外務大臣を一度やるとか、なにか経済閣僚をやるとか、いくらなんでも直ぐに高校卒業の人間に押さえのエースをやれなんていうことは出来ない。そういういわゆる年長者としてのアドバイスはするけれども、もう朝日とNHKとのケンカでも北朝鮮の制裁でも、どうでしょう。もう少し、やわらかく丸くならないと思うけれども、言ってもやはりその場では「うん」とは言うけど、スウーと言っちゃう。もうここまで来たら敵に塩送るなよ、という気持ちはある程度人間にはありますが。その辺が強さであるのと同時に弱さでもある、というような思いがあります。

彼が、私にブッシュのテキサスの牧場で、ブッシュ大統領、ラムズ国防長官、パウエルとラ



イス補佐官、向こう4人。こちら小泉さんと安部晋三の2人、計6人。一年半ぐらい前ですかね、このときに小泉さんが俺の後継者はこの安部君なんだ。これは活字になっているから言いますが、そのシーンの話をしました。そのとき彼が言ったのは、食事をするときにプレートの下に紙がありますね。食事が終わった後コーヒーを飲んでいたら、その紙にみんなサインしましょうと、ライス（いまの国務長官）が言うんだそうです。みんな自分の名前、向こうは横に書いて、日本は縦に安部晋三と書いた、それを6回ぐるぐるとまわす、それに全員の名前が出ている。今日の記念に。そしたらラムズフェルドかパウエルがこうなったら日本の次の総理とアメリカの次の大統領が出るかもしれませんね。わけの分からない、それはライス補佐官がアメリカ初の女性大統領・黒人大統領になるかもしれないという話が、次の大統領選の話してもしょうがないけれども。クリントンの奥さんとライス補佐官（本当はパウエルでしょうが）とそういう話も出ている。

その時に、北朝鮮のこと一点だけ。ブッシュ大統領の言葉ですが、「テーブルの上に好きな食べ物がないと、子供がパアッとミルクをこぼしてダダをこねる。そんなやり方にアメリカはいつまでもついていけない」。12年前のクリントン大統領がそれでキムイルソンにやられて、先軍政治、軍事優先すればアメリカは引いて、いわゆるアメリカは原子力発電所をつくることを、ケドーもやってくれた、食糧もくれた、重油もくれた。しかしそんなことは1回だけで、“おいたをした子供”にはきちんとペナルティーを科す。こういう話です。ですからアメリカは今度は絶対に引かない。その事を中国は意図的に北朝鮮に、学習効果ということがある同じ手は二度使えない。それは6カ国協議のテーブルに着くという最後のメッセージであ

る。

その話をたまたま東京でテレビをやっていたのですが、その話をした。そばにいたのがデーブスペクターというアメリカ人で、「先生、子供が好きなものがなくて、ミルクをこぼすというのは、アメリカの大人達が子供達のいわゆる注意をする。もう古典的な言い方ですから、おそらくブッシュはそういう言い方で、小泉さん達にアドバイスをしたんだと思います」。番組の終わった後、彼は食事をしながらそういう風に私にアドバイスをしてくれた。たぶん、そのような動きになると思います。

で、麻生、安部、福田、もう一人、選挙になったら100%岡田克也になります。それは民主党は、この大阪もそうでしょうが、東北の秋田、岩手、青森も含めて民主党は強いです。四国もいくつか崩れはじめました。九州も今度の山崎拓さんも最終的に逃げ切れるかどうか、ちょっとわかりません。不転の決意で退路を断ちました。政界を引退するとも言いました。小泉さんも安部さんも現地に入ります。

しかし入れれば最終的に福岡の補欠選挙は小泉をとるか、小泉をやめさせるか、そういう選挙で、小泉イエス or ノーということで民主党はやります。そうすると投票率が上がります。公明党の支援が入ったとしても、投票率が上がれば山崎拓さんが絶対に勝てるとは言えない。ただ民主党の候補にも、今はいえませんが、アキレスヒールがある。アキレス腱があると再び言われております。3月の中旬ぐらいに出てくると思いますが。そうなってくると、以前の人も経歴詐称でしたが、おそらく山崎さん勝つと思いますが、謀略戦みたいなことも生じるかなという風に思っております。岡田克也がなって、民主党が政権をとっても、長くやるということはないであろうと思います。

10. リーダーの三条件について

で、私は永田町で17年間ぐらい、少なくとも平成になって細川護熙、小渕恵三、そして今回の小泉さん、三人の隠れたアドバイザーをしてきました。私が感じたリーダー像をちょっとふれます。リーダーの条件は三つだと思っております。

一つは決断力、つまり100点満点の決定はありません。60点でもやらざるを得ない時はやらなければいけないという部分です。ここには電気関係の方はおられません、いま大阪で最大の問題はナショナルだと思えます。この中村邦夫という人の発想は「成功の否定」です。つまり松下幸之助のやってきたことをすべて否定し、大家族主義のナショナルの中で、あれだけのデジタルでV字型の回復をしながら、尚且つ、従業員の5%にあたる1,000人以上のリストラを発表。やりすぎじゃあないか、と言われてもついに株価総額がソニーを抜きました。つまり成功の否定です。

アサヒビールの関係者がいればお分かりでしょうが、アサヒビールの福地茂雄会長にいま私にご指導いただいているのですが、キリンさんや、ほかにも友人がいるのですが、話としてですが、それはアサヒビールの福地社長が社長になった日に、いまの社長の池田さんと呼んで、「発泡酒を出す。もう発泡酒を出さなければ、キリンを抜くことは出来ない。つまり発泡酒がどんどん売れて、全体の3分の1以上に売れてきた。スーパードライだけでは無理だ」。つまり福地さんというたたき上げの長崎商大出身の大阪支社長だったと思いますが、この方があの「本生」という発泡酒を出す時、たまたまシンポジウムで一緒になって、「どんなお気持ちですか」、こういう風に言ったら。「先生、それは辛かったけれども、経営環境が変化してき

た。発泡酒がこれまで売れるとは思わなかったから、先輩たちには失礼だったけれども、発泡酒を出す決断をした」。自分の次にやる人間に託して本生を企画して、そうしてひっくりかえした、そういう話でした。

シンポジウムを終わって、懇親会の席で岡本行夫という私の友人で、イラク問題の補佐官と一緒にいたのですが、福地当時社長、現会長が、あのアメリカン・エクスプレスだって100年前は、アメリカン急行という幌馬車隊ですよ。だけど自動車の走る姿をみて、アメリカン急行の社長は、もう幌馬車は20年もたんど。馬は車に勝てないんだからな、お前らの人生どうするか考えろ。それで、みんな幌馬車強盗にあつてお金を取られる人の姿を見て、カードを作り始める。最初はトラベラーズチェック、いまのアメックスです。ノキアだって木材と長靴の会社ですから、フィンランドの550万人が。それが雪国の中で電波事情が悪いけれども衛星だったら違う。携帯電話だといってノキアをつくり世界を凌駕した。

「経営環境の変化」、気付かなかつたあるスーパーが厳しくなった。その変化に対応したジャスコ、イオン系列はいまご案内のようです。イトーヨーカ堂はちょっといま苦しんでいるかどうかわかりません。ということですが、それが「100点満点ではない60点でも決断して時代の変化に応じて修正をしていく」、これがおそらく政治家です。

ですから私がお阪で、お阪市の財政をみてる専門家ですから、こんなにお金使つていたら、もう右肩下がりには決まつていて、2007年に日本の人口は減るんですから全国平均で、今、人口が減つているのは、北海道と青森、秋田、岩手、山形の1道4県ですから。ところがあと2年経つたときには、日本全国で減つて、増えるのは“のぞみ”の走つている地域だけです。だけれどもトータルでは減る。人口減少時代で景気の豊かになつた歴史は古今東西ありません。まして2007年、今日ご出席のなかにおられる団塊の世代、あの昭和22、3年、4年、ちょっと5年まで、（塊り）、もうガキの頃からケンカして競争してくる。私のように昭和20年なら、ずるして、なんとか大学は入れちゃう。補欠で入りましたが、そういう連中が240万人、2007年からリタイアしていく。社長と重役の何人かを除いて、退職金も大変でしょうが、優秀な人間がやめていく。じゃあ65歳まで定年延長していく以外にない。そういう時代に微調整しながら決断をするしかない。私はそう思います。

だから、消費税を15%に上げる、ヨーロッパは全部複数税率ですから。私は食料品と教育福祉関係はゼロ、普通のものは8か10にして、高いものは、3ナンバーの車とかダイヤモンドは20%、松坂牛はどうするかわかりませんが、ドンペリをどうするかちょっとわかりませんが、関係者がおられるんでそれ以上は言えませんが、そういうことだと思います。公務員の給与だって、40兆円も四百数十万人の公務員に払つていたら、一人当たり平均九百数十万円ですから。お阪市のように裏退職金四百数十万円も貰つていた、これも皆さんの税金ですから、法人事業税ですから。こういうことを含めて、ぜひ決断力を持った人間を。

二つ目、リーダーたる者は、どれだけやったら、人の心に何かを感じる「心の優しさ」。たまたま先日、教え子の政治家の勉強会に行ったら、「優しい」という字は、憂いてる人、悲しみを持っている人の脇に立つ、人べんをつけると、憂いは優しいという字になるんです。とこういう言い方をしたら、私たちはボランティアをやっていて、見たものの責任はあると思います。みなさんも、神戸で、そしていろんな水害もあつた、豊岡もあつたと思います。そういうものを見た以上、それが昭和天皇が昭和20年9月27日にマッカーサーGHQ司令官に初めて会う。今度、映画が出てくるとと思いますが、会つたときに陛下はこの部屋の半分ぐらゐのGHQ

の応接間に入って、英語の出来る侍従を一人連れて行きます。連合国の勝利側7人ですから、マッカーサー185センチ、体重95キロ。陛下はおそらく161センチで、当時体重50キロそこそこだと思います。一礼して、我が一身はどうなるろうとも、「日本国民が飢えて苦しむことの無きよう」、マッカーサー司令官にお願いを申し上げる、そう言って招かれて中央のテーブルに座ってコーヒーが出ますが、42分間もちろん手はつけない。最後に今日はこれで、40分間にわたって、明治憲法第一条、統帥権は天皇にありですから、あなたに戦争責任があるとマッカーサー以外の人間に徹底的に詰問された。陛下は一言も言い訳をしません。最後に立ち上がって、「戦争責任は私にもあると思います、たとえ絞首刑になろうとも日本国民が飢えて苦しむことの無きようマッカーサー元帥司令官にお願いを申し上げる」日本の史実には前段はありません。マッカーサー回顧録やGHQの文書にはあります。この話が本物だなあと思うのは、私が保土ヶ谷カントリーで宮沢喜一先生とよくゴルフをするんです。終わったときに宮沢さんが私に言ったセリフが、サンフランシスコ講和条約を結びにいった時、吉田茂の通訳が宮沢喜一、吉田さんは最後に私を呼ばなかったんだ。「おまえ今日来てなくていいよ」、ええーと思って待っていたら、終わって帰ってきて、「俺一人でサインしてきた。正確に言うなら全面講和が正しい。ソビエトと一緒に講和したほうが。しかしそんな時間的余裕はないんだ、とにかくアメリカの核の下に入って、日本は戦後の荒廃から経済の発展、産業の回復をすることが、陛下のお気持ちに答えることなんだ」。陛下に会うたびに、「吉田、国民はみんな飢えているぞ、疲れているぞ」と、天皇陛下は昭和21年、22年とずうーと行幸をされていますから、全国をまわっていますから、それを吉田に言われた。だから死ぬまで臣、天皇陛下の臣下、臣吉田茂と書きます。そのことが、「軽軍備重経済」という保守本流の原点であります。

こういう言い方をしましたが、おそらく、民のかまどに火がともっているかに関心のない、そういうリーダーたる者は駄目である。中小企業経営者が3万3千何百人のうち、9千人が経済苦で自殺をするという時代。もう4年も5年も定率減税だってどうですか、半分やるんですが、1,000万円以上の人をまず全額切ればいいじゃないですか、あの審議をした連中は大企業の社長と国立大学の有名教授ばかりですよ。給料は一千万円以上だし、ああゆう有名な先生はいろんなところからお金貰って、数千万円のギャラありますから、そんなもの1,000万円以上の所得のある人から定率減税やめれば。そういう気持ちがない。私は政府や国のいろんな審議員になってくれといいますが、たかだか数万円ですよ。お金はほしいけれども、私は自分の先生に「御用学者になるなよ」その部分です。だからやっぱりそれがなんとなくない。天皇陛下の中にはまだあったのかという気がします。天皇陛下万歳では全くありません。

三番目、最後、「聞く耳を持つ」、人の話に。私はいろいろやっても、学生たちと最後までとことん付き合いますが、学生から教わることもあります。随分教わっている。なるほどそういうことなのかという事もあります。だから聞く耳はぜひ。それから現場主義の中で、いろんな人の聞く耳を持つ。ナショナルの中村邦夫会長が大変な現場主義であるということは、皆さん関西ですから充分ご存知だと思います。その話をこの間、名古屋でやりました。終わって懇親会になった。名古屋は三分の一トヨタ関係者ですから、アイシン電機、トヨタ車体の人がきて、先生、張社長だって手袋はめて工場にくるんですよ。多少時間のあるとき、わかっているかどうかわからないけれども、一々女子工員にこれどうなってるのと聞く。そういう気持ちを持たれている。これも現場主義なんだという気がします。

聞く耳、12月小淵優子さんという政治家が結婚することになりました。地元でパーティがあ

って私は呼ばれた。先生来る以上、30分でも40分でも話をして下さい。お母様の小渕千鶴子（小渕恵三夫人）さん、ゼミの先輩筋にあたりますから、私は話をした。終わってコーヒーを飲んで居たら、奥様が、「先生ぐらいですよ、政治家が死んでそれでも東根のサクランボとかスイカを送ってくるのは、政治家は死ぬと誰も送ってこない」。私は先輩の霊前に大好きなものですから、ささげて下さいという気持ちです、そう答えた。そしたら、主人との思い出のなかで、いまでも一番よく覚えているのは、最初にアメリカに行ったとき、堺屋太一先生にいわれて、ニューヨークのカーネギー一世の墓標をみて来なさいと。時間があつたので、またそんなに遠くないので、アメリカ大使館、日本の大使館の人に言って見に行つた。墓標の上を書いてあつた言葉、主人はそれをメモをとつた。なんて書いてあつたんですか、聞いたら“自分よりも優れた者を自己の周囲に置いた者、ここに眠るカーネギー一世の栄光をたたえて”、という言葉です。

英語ではちょっと奥様覚えてなかつたので、わかりませんが、本訳すればそんな意味です。

カーネギー一世は一代で巨万の富を築いた。カーネギーは側近のいろいろな人に聞いた。なにか出来るかなあ、財団作つて恵まれない人達のチャリティの団体を、カーネギー財団を、そのお金でいろいろなことが出来るじゃあないですか。例のインド洋の大津波、津波エイドども、あれは後ろにカーネギー財団、アメリカの財団が入っている。メグラリアンとかブラックピットなどいろいろな人たちが電話して、あそこで飲んでいたマグカップにサインしてくれたら、1,000ドル出します。それでお金をつくる。（日本でもっとそういうことを、阪神タイガースの選手達がやればいいなあと思うのですが、ヤクルトは脅かしてますから、やっておりますが）。その話をして、そうしたら、その次に、まだお金があるから何か出来るか。若い芸術家達が舞台がほしいといっているから。それがいまのカーネギーホールです。そういうふうにしてカーネギーはアメリカの中に、あのチャリティというものをつくりあげた。

日本のある国の総理大臣、小泉なんとかさんという人は、言うと、むかつぱらたてますから。それでは山崎拓さんが、別れ際に、「先生、俺は受かって永田町へ帰りたい」。私もそのときは頭を下げるしかない。そしたら「小泉には相談する人がいないんだよ。もう飯島秘書官と、言いましたが、家族のお姉さんたちしかいないだろう。

一国のリーダーたるものが、相談する人間がいなくちゃあ難しい」。山崎拓さん東京へ来たときは、小泉に会うといっていますが、加藤紘一は完全に横を向きました。私もブレインの一人ですが、だったのですが。ちょっともう小泉さんでは。感性だけ鋭くても、もう少し全体の構図を考えた、財務省や外務省の友人達が説明に行つても、10分しか聞いてくれない。後は読んでおくから、書類は山のように積んである。それではこの日本の国のこの実態がどうなるのか分からない。

先日トラック協会の講演に高松へ行つて来ました。友人が副会長していて、「福岡 小泉に会えるんならな、日本の地方経済は“生かさず殺さず”という言葉はあるが、今の状態は“殺さず殺さず”だなあ」こう言われた。私は全国207回講演したと言いました。今年から数を減らして体調を維持して痩せようと思っています。景気のいいところは多い。北海道は1回だけです、去年。根室商工会議所、8時に講演終わって、そのあとユニ・イクラ井を食わしてくれるというから、死ぬほど二杯食べてお腹いっぱいだから、ホテルまで10分歩いて帰る。商店街、駅前歩いて会った人は二人ですよ。ホームレスの犬が7匹ですから、それでホテルに入ろうとしたら、近くでギャアギャア騒いでいるやつがいるから、誰かなとみたら鈴木宗男ですか

ら。先生何をやってんですか。おめえこそなにやってんだ。私のほうがちょっと年上ですから、それからまた1時間ぐらい飲んでしまいました。

だけど本当に北陸へは行かない、皆さんだって山陰へは行かない、と思います。秋田県、山形県など最近行ってないと思います。九州の南、宮崎、鹿児島、熊本はちょっとあるかもしれない。大分は今日この後、終わってから、長崎経由で入りますが、本当にその落差は大きいです。

で、東京にいて、品川駅前の高輪泉岳寺に住んでいます。京都に通うので、どうしても“のぞみ”の停まる場所にと。あの辺のビルは30階、40階建てが35本ですよ。問題の三菱もあればキャノンもあれば、いろいろあります。あそこの駅前で商売やって食べ物屋やったら絶対成功しますから。皆さんから安くもらってそれを弁当にして売ろうかと考えてはいませんが、それは人の集まる場所は、賑わいがあるということ。ここの部分だという風にいます。

最後になりますが、本当にいま日本の国大きな曲がり角に来て、730兆円の借金を530兆円弱のGDPでやっていっても、今年中に770から80でしょう。2010年には1,000兆円確実に越えます。

GDPは2007年550兆円まできつといきます。ですが2007年から人口が減って、団塊の世代がやめればGDPはもう上がりません。借金は1,000兆、GDPは550兆から下がる、借金が倍ですから。

82兆円の国家予算のうち42兆円が税金ですけど、37兆円は国債ですから。あとはいわゆる国道、国有地を売ったり、日銀の整理のお金をごまかしたヘソクリを使っているだけ。ですが、おそらく40兆円近い借金、42兆円のうち40兆円が公務員の給料だったら何にも出来ない。地方なんて合併しろなんて、特例公債をくれるといっても、大阪はそれほど多くないからピンときませんが、10年くれるといっている。国があと5年で1,000兆円の借金王国になるのに、こんなもの3年か4年ですよ。生命保険の予定利率の引き下げと同じ。あれは実を言うと嘘で、悪いけれど7掛けにしてくれといってくる、いまミニバブルでどんどんつくっている、無駄な物を、ということです。

その辺の切り替えを、私は何とかしたい。特に、寝屋川の問題など、きょうは女性の方が少ないので話ませんが、やっぱり子供たちの安全をどうするか。私は60才以上のおまわりさん、消防士、自衛官、この人達に月30万円、年間360万円で24時間交代で。杉並区は既に100人採用しました。区長は教え子です。そうやって小学校、幼稚園、保育所に二人ずつ立ってもらう。それがやはり自分の子供や孫がいなくなると大人たちの責任であります。それがいま東京から関西にきて2年になりますが、京都のいじめにも若干あっていますが、大阪は東京の下町と同じで好きなこといえるので、リズムが合いますので、好きなことは言い続けますが、大きな日本の転換期が来たから。

そういうような思いであります。長時間ご清聴有難うございました。